

tatsunya

—最愛なる者の側へ

作／鐘下辰男

人はここで皆負けてゆく、
こことは孤独の絶頂。

ノリオ

一九六九・九・九

プロローグ

遠くで子どもが泣き続けている……。

小さな矩形（それは独房のイメージ）の空間をタツヤが走っている……タツヤの頬には醜い火傷痕……。

一隅には小机と便器……机上には一冊の大学ノート。

「本籍、北海道網走市呼人番外地^{よびと}。住所、東京都新宿区下落合一丁目十四番地幸荘^{さいわい}。元喫茶店ボーイ、ハシモトタツヤ。右の者に対する、窃盗、銃砲刀剣類所持等取締法違反、火薬類取締法違反、殺人、強盗殺人、被告事件について、当裁判所は次のとおり、判決する。
主文。被告人を死刑に処す。」

タツヤ床に横臥する——激しい息づかいだけが狭い「独房内」に木霊する……。

タツヤ、机上の大学ノートを取る……。

遠く、で鎖が解かれる音。

タツヤ
――。

看守……。

タツヤ
……

看守
面会だ

タツヤ
…… オレに？

看守
お母さんだ

矩形の外に、頬被りをした老婆が透けて見える……。

タツヤ
(大学ノートを机上に置き、ふたたび走り始める)

看守
ハシモト

タツヤ
(走る)

看守
遠いところ汽車に揺られ せつかく見えられた せめて顔だけでも

タツヤ (立ち止まり) 看守さん

看守 … ん？

タツヤ 人間は「ある」のではなく自己を「造る」のである

看守 ……？

タツヤ 哲学科出たんだろ？あんた

コドモダチへ

カッチャハアオモリサカエリマス

タツヤ ……

サヨナラ 八八ヨリ

浮かぶ老婆(窓外)——独房内は一瞬にして北海の上空を舞
うウミネコの群れ——。

白煙を吐き走る汽車——大都会の喧噪——経済成長に酔う人
々——荒れる全共闘——。

轟音響かせ都会の電車音——一九六八年、夏。東京。

うだるような暑さの三疊間にタツヤを含めた五人がひしめく。

絃治（裸体）、修（一眼レフカメラを手に）、広志。

彼らは、いわゆる「フーテン」と呼ばれる若者たち。

修 （絃治に）大丈夫かなあの女（眼鏡が熱気で曇っている）

絃治 （下着をはき、団扇をせわしなくあおりはじめる）

修 なア絃治 顔なんかジャガイモだぜ どうすんだ？あのままサツに逃げこまれたら いつもみてえにシヤブ漬けにすりゃあよ（息ができない——絃治のケリが入った）

絃治 見たろ？ お高くとまって人ウジ虫みたいな目でよ あんな女正気で

やりまくるに限んだよ 地獄味あじあわせりゃいいんだよ

修 （苦悶しながら）だってよ 今度なんかあつたらオレ本当「練馬行き

」なんだよ

広志 修 いいぞオ鑑別所は 三食寢床保証付き 天国だ

修 広志 大体おまえが最初にぶん殴るからギャーギャー言いだしたんだからな サツにたれこまれたらテメエ責任取れよ！

いきなり大音響で入ってくる、電車の音——ラリ中の広志が窓を開けた——。

修 何してんだよ！（窓を閉めようと）

広志 （閉めさせず）少しはスッキリしろ 外の空気吸ってよ

絃治がヤカンを二人に投げ窓を閉める。

絃治 喚くな よけい暑くなる

修 （広志に）オレは元からスッキリなんだよ いかれたラリ中と違つてな

広志 締め切つてフラッシュバカスカエロ写真 いかれてんのはどつちだ
修 ゲイジュツつて言え ゲイジュツつて

広志 女シャブ漬けにしてオマンコすんのがゲイジュツか？

修 その方がいい写真撮れんだよ！

広志 あれがゲイジュツならオレのチンポコはもつとゲイジュツだぜホラホ

ラ（一物を出し）

修 やめろバカ！

広志 撮ってよオ修ちゃん おれのチンポコ撮ってエ

修 寄るなバカ！

広志が飲んでた缶ビールを二人に投げつける。

広志 ……（空の小さなビニール袋を出し）な じゃもつとくれよ

修 （広志に）イカれる脳みそ

広志、ふたたびせわしなく団扇をふりながらラジオをつける。

広志 広志
（ラジオのロック音楽に合わせ舞いはじめる）

広志 広志

修 (広志に) 本当あの世行きだそのうち 天国だ! (笑う)

広志 …… タツヤ (本を読んでいる) キョウコに扇風機買ってもらえ 蒸し風呂だこれじゃ (本を取り上げ) 聞いてんのか!

広志、タツヤを蹴りつけるなどの暴力――。

絃治 ツンボかッ! あ!? 余計蒸し風呂だ!

広志 だったら窓開けりゃいいだろ!

絃治 開けたら臭エんだ表のゴミ捨て場がよ!

遠く子どもの泣き声――。

修、ラジオのボリュームを落とす。

修 …… またはじまったよ

女の声 (物が投げつけられる音) ――ふざけんじやないよ! 泣けばいいっ

てもんじやねえんだよ! (泣き止まない) 泣くなって言っつてんだろ!

燃やすゾテメエ!

ふたたび物が投げつけられる音——泣き声。

修 あれ いつか殺すな

紘治 親も親ならガキもガキ あんなんされても毎日犬みてえあとに後くつついてヨ

女の声 このゴクツブシ！

修、ラジオのボリュームをもとに戻す。

「——反日共系学生八千八百人が都内各所で機動隊と衝突。国鉄山手線全線がストップしました。特に新宿駅及び、その付近一帯の混乱は激しく、学生側が火炎瓶を使用した事から、警察は装甲車を出動させ、デモ鎮圧に当たっております。」

修 やれやれゼンガクレン！ 日本ぶつつぶせ！

「続いて次のニュース。八日未明、横須賀米軍基地に於いて、拳銃一

丁、及び実弾約五十発が盗まれていることがわかりました。警察は、学生たちによるデモが先鋭化していることから、一部の過激派による、武装闘争のための武器調達ではないかとみて、捜査を開始しています。盗まれた拳銃は、コルト製ローマン・マークⅢ、二十二口径のリボルバ
「――」

修

畜生！ 俺も金持ちだったらよ 大学行つて 過激派入つて ポリ公の二三人ぶつ殺してやるのによオ（手を拳銃の形にして打つ仕草）ダ
ーン ダーン ダーン（笑う）革命が本当になりやスッキリすんだよ
この国も

ラジオを切るタツヤ。

タツヤ

すいません 帰つてくれないスカ

修

おまえよ なんかやけに強気じゃねえか今日

タツヤ

： グラビアも終わったんだし キョウコも帰つて来る あんたらいとあいつ機嫌悪くなるんだ

修　　なんでキョウコのご機嫌取りだよオレたちが

絃治　修（帰るぞ）

修　あのくそチョウセン　まだ店で客取ってんだ　この前ガキできちまつたときなんか店の便所でテメエで突っ込んでおろしやがった　その血洗ったのオレだけ（広志に）な

絃治　（黙れ）家主のお達しだ

広志　（タツヤに）大変だな　ヒモ家業も

タツヤ　……

広志　だよその眼はよ　ホラ来い　ホーチミン！（殴りつける）

絃治　いいから先出てろ！

広志　感謝すんだな　キョウコの腐れマンコによオ

修　（笑う）

広志　（「網走番外地」のテーマ曲をくちざさむ）

タツヤ　……

広志、修、室外へ……。。

絃治

(タツヤが読んでいた本を手にして) ドストエフスキー カラマーゾフの兄弟 おまえよ 漢字もロクに書けねえくせしてわかんのか? こんなの読んで

タツヤ

(本を取り) すいません 無理言つて

絃治

(シヨートピースに火をつける) 広志じゃねえが 本当扇風機くらい買つてもらえ おまえの言うことなら聞くんだろ? キョウコだつて

タツヤ

あいつとはそんなじゃないです ここ 若い奴の一人暮らしいい顔しないんで一応姉弟つてことに: だからただの同居人です

絃治

じゃいいか 今度キョウコ借りて

タツヤ

……

絃治

グラビアのモデルだよ

タツヤ

……

絃治

(手にしている団扇で頭を叩き) 黙つてねえでよ なんか言えよ

タツヤ

だから関係ないんです オレとあいつは

絃治

どっちだ 貸すのか 貸さねえのか

タツヤ

関係ないんで オレとあいつは

絃治

同じ屋根の下で暮らしててか?

タツヤ 待ってますよみんな（外で）

やや間。

絃治 そいやあおまえ 戸籍謄本出せって言われたらマスターに 早くしろ

つてよ なくちゃ正式採用できねえつて

タツヤ 持ってますん

絃治 あ？

タツヤ … なんスカコセキなんとかつて

絃治 田舎のおかんに言やあ送つてくれる

タツヤ ……

絃治 キョウコに言われてマスターに紹介したのオレだぞ 顔つぶす気か？

タツヤ … わかりました

絃治 どした？ 顔色悪いぞおまえ なにか悩みごとあんならいつでも言え

（タツヤが読んでた本を示し）オレたちだって兄弟みてえなもんだか

らよ

タツヤ ……

錠剤が数個入った小さなビニール袋をタツヤの前に。

絃治 広志には内緒な

タツヤ … ありがとうございます

絃治 (胸ぐらをつかむ) 店じやんなよ 店でポックリなんてたまんねえ

からよ 死ぬなら外で死ね 独りで

タツヤ ……

絃治 (サングラスをかけ) グラビアの件 楽しみにしてるって よく言っ
といてくれキョウコに おまえから「骨まで愛して」を口ずさむ

絃治、団扇をふりながら室外へ――。

タツヤ ……

浮かんでいる老婆 (窓外) ……。

タツヤへ

ヤクバノシトサタノンデ
コセキトウホンツクリマシタ
四十エンカカリマシタ
サヨナラ 母ヨリ

タツヤ、部屋の一隅へ行き、バックを開ける……。

タツヤ
……

出て来るのはコルト製、ローマンMKⅢ……。

タツヤ 修

——（急いで拳銃を隠し）あ？

修 金貸してくれよ

タツヤ ……

修 おまえどうせキョウコからたんまり貰ってんだろ？

タツヤ （千円札を修へ）

修 みんなには内緒な 返事

タツヤ … はい

修、去って行く……。

タツヤ … 死ね

タツヤ、ふたたびバックからローマンMKⅢ……。

窓外の老婆の姿は消えている……。

代わりに見えるのは、窓ガラスに映る拳銃を手にした自身の姿……。

タツヤ ……

やがて自らを映画のヒーローのように見立て、拳銃を構える。撃鉄を起こし、引き金を引く——カチツ。

タツヤ

……(笑顔に)

大きな 大きな流氷が浮かぶ 海へとそそぐ川の上
その川に架かる 長い 長い橋が見えます
その上で一人立ち尽くす 幼い自分が見えます
橋の上に座り込み 小さな両手で橋の欄干につかまり
遠くに広がる オホーツクの海を眺める自分が見えます

人形を背中の「骨まで愛して」を歌う「白い女」が窓の向こ
うに透けて見える。

タツヤ

……

笛のようにこだまする 風の音
容赦なく打ち寄せる 灰色の海
長い 長い 橋の上
白い 白い 雪の色

痛い 痛い 北の海

白い女

(「骨まで愛して」をくちずさんでいる)

通り過ぎる電車——拳銃をバックにしまい込むタツヤ——黒
サングラスのフーテン風の女が入ってくる。

キヨウコ

ただいまア (目の下の隈が痛々しい)

タツヤ

… おかえり

キヨウコ

おみやげ

生のキャベツが一個丸ごと……タツヤ、貪るようにそれをそ
のまま食べはじめる……。

キヨウコ

(笑う) 食べてないの? なにも

タツヤ

(答えず食べる)

キヨウコ

… (サングラスを取り窓辺へ) なにしたたの

タツヤ (食べ続ける)

キョウコ (窓示し) 見てたでしょ？

タツヤ (食べ続ける)

キョウコ (背中におぶさる格好で) ねエ なに見てたの？

タツヤ (払いのけて) つせえなあ なんなんだよ

キョウコ (窓から外を見て) 見えんのは家だけ 他にはなアんにも見えない

タツヤ 考えてたんだよ 消せねえかつて

キョウコ は？

タツヤ どうせいらねえ人間 ウジ虫みてえな人間はいねえ(が)方ましだろ

キョウコ ゼンキョウトウがやってくれんじやない？ 今日のデモなんか凄かつ

たわよ まるで戦争 火炎瓶は飛ぶは戦車みたいな装甲車出て来るわ

あれなら街の一つくらい消せるわ

タツヤ ポリ公一人殺せねえやつらになにができる しょせんボンボンに革命

なんか無理なんだ

キョウコ (笑う) 言うじゃん ね なんかあったの？店で またクビ？

タツヤ つせえな おまえこそやな客にぶち当たったんだろ？どうせまた 今

日はどんなオヤジだったんだよ え？

キヨウコ (抱きついて) あれエエ まさかヤイてる? (笑う)

タツヤ (払いのけて) おい 言つとくがオレはもう昨日までのオレじゃねえ

んだよ 街は無理でもな おまえ一人くらいなら簡単に消すことがで
きんだからオレは

電車が通り過ぎる――。

キヨウコ 今度さア 客連れてくるワここに マスター二階使わせてくれなくな

ったし かといつてヘタなところでヤルとなにかとまずいのよこの業
界

タツヤ ここはオレの部屋だ

キヨウコ あたしいたから借りれたんじゃないの?

タツヤ ホテル使やあいいだろ?

キヨウコ デモ騒ぎで新宿は今ポリ公だらけ 保護監察ももうすぐ終わる 今捕
まるわけにはいかないの

タツヤ ……

キヨウコ (紙幣をタツヤの前に) 映画でも見に行つてれば? あたしがここ使う

ときは 今ならちようど網走番外地 格好いいよお高倉健 ♪その名も網走番外地

タツヤ

つせえな!

キヨウコ

(笑う) やつぱヤイてんだア

タツヤ

ざけんな! 誰がテメエみてえなバイドク!

キヨウコ、タツヤのバッグを取り上げる――。

タツヤ

(咄嗟に奪い取る)

キヨウコ

(バックを示し) なんか隠したでしょ あたし来たときさつきそこに

タツヤ

関係ねえだろテメエには

キヨウコ

ポリ公に届けるってよ大家

タツヤ

… なんて

キヨウコ

さつき会ったの入り口で

タツヤ

なんで警察だよ!

キヨウコ

柄の悪い連中出入りするわ時々女の悲鳴聞こえるわ ついでにお宅ら

本当姉弟か? って

タツヤ

……

キヨウコ

いいの？ 生まれてはじめての自分だけの部屋 また戻りたい？ 野宿生活

タツヤ

…（独り言のように）だったら客入れんだってまずいだろ

キヨウコ

ん？

タツヤ

（なん）でもねえよ

キヨウコ

絃治たちとくだらんエロ写真撮ってるうちはいいけど なにか企んでんならやめときなよ

タツヤ

つせえな！ なんなんだよ今日はよオ！ 関係ねえだろつての！ オレがなにしよう！

キヨウコ

冗談で言ってるんじゃないの あいつは狂ってる

タツヤ

… 絃治がグラビアのモデルなれつてよおまえに

キヨウコ

……

タツヤ

黙ってねえでなんか言えよ！

キヨウコ

いいわよ別に でもシャブはごめん よく言つといて絃治に あんたから

タツヤ

……（絃治からもらった錠剤を飲む）

キョウコ

(ショートピースに火をつけ) … 本当 たまには海でも見たいよね

エ こんな景色ばっか見てるときア

キョウコ、ラジオをつける……ボブ・ディラン『風に吹かれて』……。

聞こえてくる大声——「あえいうえおあお、かけきく……」。
登場してくる若者たち（男は学生服、女はセーラー服。顔は
白い仮面で覆われている）。
腿上げをしながら大声での発声練習。

若者たち

……わゑゐうゑゑつをわを ん！

コンサルタント

いいですね そのようにハッキリと お腹から声を出すようにね

若者たち

はい

コンサルタント

暗くならない！ いいですか？ 東北からの集団就職組は油断すると

すぐ暗くなってしまう 明るくハイ！ 何度も口の開け方は練習
しましたね

若者たち

（明るく）はい！

コンサルタント

（タツヤに）君 さつきからボーッとしますが私の話ちゃんと聞いて
いますか？ はじめからそのようではこの先おもしろいやられますね

タツヤ

はい

コンサルタント
その沈み込むような返事やめて 胸を張って 顎を引いて 元気よく
大きな声で

タツヤ

(元気よく大きな声で) ハイ!

コンサルタント

(若者たちに号令)

若者たち

(筋トレを交え) イチニーサンシーゴーロクシチハチ ハイ!

コンサルタント

元気よく!

若者たち

(元気よく) イチニーサンシーゴーロクシチハチ ハイ!

コンサルタント

明るく!

若者たち

(元気よく、明るく) イチニーサンシーゴーロクシチハチ ハイ!

コンサルタント

笑顔で!

若者たち

(元気よく、明るく、笑顔で) イチニーサンシーゴーロクシチハチ

ハイ!

筋力トレーニングと共に行うところは、一見軍隊訓練のよう
にも見える。

コンサルタント

（全員に）くれぐれもその明るさ 元氣 そしてその笑顔 それが基本ですね この基本を身につけることによってはじめて君たちはこの渋谷上村フルーツ店の一員と成るのです

若者たち

（明るく、元氣よく、笑顔で）ハイ！

コンサルタント

ではその三つの基本をふまえた上で 君たち集団就職組には接待の仕方を学んで頂きますね

若者たち

……

コンサルタント

わかりますか？ セツタイ

若者たち

……

コンサルタント

たとえばショッピングしてくださるお客さまに対し なんにする？

どうですか？ お客さまは君たちのお友だちではありません！ お客

さまは神さま！ この心掛けを忘れてはなりませんね 返事！

若者たち

はい！

コンサルタント

基本！

若者たち

（元氣よく、明るく、笑顔で）ハイ！

コンサルタント

ここで問題となってくるのが君たちの訛りですね なんするべ？ どうですか？ こんなお店でフルーツを買いたい ショッピングしたい

なんて気持ちになれますかア!?

若者たち

……

コンサルタント

なれますかなれませんかア!

若者たち

(明るく、元気よく、笑顔で) なれません!

コンサルタント

つまり君たちはこれから一切訛ってはいけません なんするべ? ではなく なになさいますか? (号令)

若者たち

イチニーサンシーゴーロクシチハチ なになさいますか?

コンサルタント

基本!

若者たち

(明るく、元気よく、笑顔で) イチニーサンシーゴーロクシチハチ

なになさいますか?

コンサルタント

もう一度!

若者たち

(明るく、元気よく、笑顔で) イチニーサンシーゴーロクシチハチ

なになさいますか?

コンサルタント

もう一度!

若者たち

(明るく、元気よく、笑顔で) イチニーサンシーゴーロクシチハチ

なになさいますか!

コンサルタント

休憩!

座り込むタツヤ。他は誰も座らない。タツヤも慌てて立つ。

コンサルタント どうです？ 段々と笑顔ができるようになってきましたね？

若者たち、改めて姿勢を正し、笑顔を作る。

コンサルタント (若者1に) 君はどこから来たのですか？

若者1 はい 岩手デス

コンサルタント 訛ってる！

若者1 すみません！

コンサルタント 基本！

若者1 (元氣よく、明るく、笑顔で) すみません！

コンサルタント どうでした？ 東京

若者1 はい いろんな色の自動車があるんでびっくりしますた

コンサルタント 自動車!? 渋谷にSLは走っていますか？

若者1 (元氣よく、明るく、笑顔で) すみません！ デンシャです！

コンサルタント (全員に号令) !

若者たち

(元気よく、明るく、笑顔で) イチニーサンシーゴーロクシチハチ
デンシャ!

コンサルタント

これはよく出てくる単語ですから注意して下さいね 間違っても汽車
などと言わないようにね

若者たち

(元気よく、明るく、笑顔で) ハイ!

コンサルタント

(タツヤに) 君は どこから来たのですか?

タツヤ

青森です

コンサルタント

アオモリ! どうやって来ました? アオモリから

タツヤ

… 汽車です

コンサルタント

(若者たちに) アオモリ汽車走ってました? 盛岡止まりじゃありませんでした?

若者たち

(笑う)

コンサルタント

そうですね アオモリまで汽車! 豊かになったんですね エ日本ニッポンも

東京はどうでした?

タツヤ

人が多いのでびっくりしました

コンサルタント

そうですね (若者たちに) なんせアオモリですからね エ

若者たち

(笑う)

コンサルタント

オカシクナイですね　そういうのを東京では目糞鼻糞を笑うといひます（号令）

若者たち

（元氣よく、明るく、笑顔で）イチ　ニー　サン　シー　ゴー　ロク　シチ　ハチ　目糞鼻糞を笑う！

コンサルタント

しかし君はアオモリの分際にくせに訛りがないと評判ですね　本当にアオモリですか？

タツヤ

本当です

コンサルタント

その顔の傷は？

タツヤ

：　火傷の痕です　小さい頃の

コンサルタント

……

タツヤ

本当です！

コンサルタント

ハシモトタツヤくんでしたね？

タツヤ

はい

コンサルタント

君には面会の人が来ています　終わったらここに残るように

タツヤ

……

コンサルタント

返事！

タツヤ

はい

コンサルタント

基本！

タツヤ

(元氣よく、明るく、笑顔で) ハイ！

コンサルタント

(若者たちに) いいですかみなさん 困ったときはいつでも相談して下さいね 私たちはもう 家族みたいなものですからね いいですね

若者たち

(元氣よく、明るく、笑顔で) ハイ！

コンサルタント

外を見てください

若者たち、窓から見える風景を見つめる。

若者たち

……

コンサルタント

なにが見えます？

若者たち

ビルが見えます

コンサルタント

そして？

若者たち

電車が見えます

コンサルタント

そして！

若者たち

人が見えます

コンサルタント

これが日本ニッポンです 豊かで 華やかで 美しい日本 これが現実の日本

若者たち

はい！
過去は捨てるんです。貧しき。は過去なんです

コンサルタント

はい！

若者たち

はい！

コンサルタント

この豊かな日本に誇りを持つんです！

若者たち

はい！

コンサルタント

君たちの過去を知る者はここには誰もいない。君たちはここで生まれ

変わることができるとです！

若者たち

はい！

コンサルタント

第二の人生を歩く事ができるんです！

若者たち

はい！

コンサルタント
君たちはこの日本の金の卵なんです！

若者たち
はい！

コンサルタント
よろしい！ 本日の研修は以上！

通り過ぎる電車——走り去る若者たち——男が一人、立って

いる……ただし正。

タツヤ
… 兄ちゃん？

正
すげえな びつくりしたよ大きな店で

タツヤ
……

正
… 久しぶりだな

タツヤ
……

正
(笑って顔を示し) 忘れたか？

タツヤ
どこいるの今

正
… 板橋

タツヤ
どこ？それ

正
住み込みだから駄目だぞオレんところは

タツヤ ……

正 (窓に歩み寄り) すぎえな 大都会のドマンナカ(笑う)

タツヤ 住み込みって?

正 店に住み込み 自分の部屋なんてねえんだよ 来ても入れられねえ

タツヤ (じゃなくて…) 仕事 兄ちゃんの

正 牛乳配達 っていうかよ メロン一個五千円? 買う人いんだな こ

ういうとここにすりやよかつたよオレも

タツヤ 違うんだ話が色々 先生にはもつと田舎の 近くにグラウンドがある

とこって約束だったのに

正 おまえ まだ走ってんのか?

タツヤ なんか騙されたって感じで 先輩にも本当おまえ青森かって 訛りな

いから どの馬の骨だみたい目で

正 なことで一々あれしてたらやってけねえぞここじゃ 金の卵なんて言

われんのも最初だけなんだし

タツヤ ……

正 伸一しんいちには逢ったか?

タツヤ ……

正 連絡したんだろ？ 東京来るとき

タツヤ … 住所知らないし

正 … どしたんだ？じゃ 東京来る支度とか

タツヤ ……

正 (懐から財布を出し五百円紙幣を差し出す)

タツヤ いいよ

正 (タツヤに握らせる) 立派な店なんだし そのうち背広くらい なんの足しにもならんけどなそんなんじや

タツヤ ……

正 じゃ オレ行くからよ 夕方の配達あるし

タツヤ 兄ちゃん

正 元気だな

タツヤ ありがとう

……正、タツヤの手になにやら書き込む。

正 (タツヤに差し出す) 伸一兄ちゃんの住所 困ったときは連絡しろ

(大丈夫) 一応所帯も持って一人前にやってんだ 罰は当たらねえ

タツヤ これ… 母ちゃんかあに教えてもいい？

正 (タツヤの手を取り) わかんだろ？おまえだつて 誰もあの人のこと

母ちゃんだなんて思つてねえ

タツヤ … ごめん

正 約束だぞ 仕事は辞めねえ 一度辞めたら止まらなくなる ここはそ

ういうところだ おまえもやつと逃げて来れたんだし あの家から

いいな

タツヤ ……

正 じゃあな(去る)

タツヤ ……

遠く、パトカー……段々と近く――。

タツヤ

?……

電車の轟音――。

ボーイの格好をした修が駆け込み、タツヤにぶつかると、修が手にしていた女物の下着や写真などが散乱。

修

なとこ突っ立ってんじゃねえよ！（拾い集める）

タツヤ

どしたんスか？

修

ポリだ　ポリ

タツヤ

なんで！

修

（タツヤを払い）知るかよ！　とにかくいきなり入って来て　紘治引っぱってった　いきなりワツパ掛けやがって　おまえも変なもん持つ

てんなら今のうちに捨てちまえよ

タツヤ

(バックを抱え) どこに？

修

テメエで考えろ！ 知るかテメエのことまで！

修、去って行く。

タツヤ

……

タツヤ、バックより拳銃を取り出し、どこかに隠そうと……、男が入ってくる。

タツヤ

(急いで拳銃をバックにしまい込む)

修と同じくボーイの格好をした広志……。

タツヤ

ポリは？ もう帰ったんスか？

広志、タツヤの鳩尾にパンチ。

タツヤ
(息が出来ない)！

修、出て来る。

修 広志？ おめえまたラリつてんのかッ!? 紘治パクられたって時に！

広志 スッキリしてる

タツヤ じゃなんだよ！

広志 (タツヤに向かって行こうと)

修 (広志に) 待て (落ち着け) どしたんだ？

広志 そのキチガイに聞いてみる

タツヤ なにをだよ

修 (タツヤに) おまえ黙ってる

タツヤ (尚も広志に) オレがなにしたってんだよ！

修 黙れってんだよ！

広志 チクったんだよサツに こいつが

修

……

広志 絃治売ったんだよこいつがサツに！ 連中が言った タレコミあつた
つてな

タツヤ

知らない オレじゃないです

広志

シャミセンこいてんじゃねえよ！

修

だつて絃治の紹介だぜ？こいつ

広志

修 男と女の間にはな 深アーい河が流れてんだよ

タツヤ

オレじゃねえ！

修

(タツヤを殴つて黙らせる) 黙つてろつてんだろ ツンボかテメエは
(広志に) このまえのグラビアの女じゃねえのか？ 顔ジャガイモに
された腹いせに

広志

ならなんでシャブのことまで知つてんだ？ タツヤ 絃治がシャブに
手エ出してんの知つてんのは ここにいるオレらと おまえしかいな
いんだよ

タツヤ

オレじゃないです

広志、タツヤの顔面を殴る——タツヤの顔が鮮血で染まり、

鼻血が滴り落ちる。

広志

なんかやるとは思ってたけどよオ　とうとうやりやがったこのキチガイが！（胸ぐらを掴み上げ）大体な　最初からテメエは気に入らなかつたんだ　仕事は覚えねえしよオ　洗い物やりや皿割つてよオ　買い物させたら遅くてよオ　気味悪いんだよテメエみたいな奴はよ！（蹴り上げる）

タツヤ

…オレじゃねえ

広志

絃治の紹介だかなんだか知らねえがよ　まるでオレたちの仲間みてえな面しやがつてよオ　誰もテメエこと仲間だなんて思っちゃねえよ！
態度でかすぎんだよこの田舎者が！
イナカモン

広志、タツヤへの暴力——飛び散る鮮血。

タツヤ、バックを取ろうと——広志にそれを阻止され、再び殴られる。

タツヤ

（修に）…オレじゃねえ　オレがチクつたんじゃねえ！

広志 修 紘治はもういねえ 遠慮いらねえんだよそいつには

タツヤ (修に) オレじゃねえ!

修 (タツヤへ暴力) ——!

一瞬にして室内は、流水と共に打ち寄せる、極寒のオホーツク——。

伸次 あやまれ え!? おれたちにあやまれ!

タツヤ ……

伸次 悪いことをしました すみません あやまれって言ってるんだよ!

伸次の暴力がタツヤに炸裂——唸る北の海——。

伸次 (ナイフを出す) 悪いことをしました すいませんってあやまんだよ

! 言わねえか!

正 兄ちゃん このくらいにしとこう な

伸次 (修に) 押さえろ

正 死んじゃうよ本当に

伸次 押さえろって言ってんだろ！

正 ……

伸次 早く

正 畜生！（タツヤを崩れないよう押さえる）

伸次、タツヤを切りつけようと——正を振り切り、這うように逃げるタツヤ。

タツヤ ——！

極寒のオホーツクに立つ女……背中に人形をおんぶ紐でくくりつけている……。

タツヤ ……

白い女 （ふとタツヤを見て）タツヤ？

轟音響かせ電車が通り過ぎる――。

タツヤ
姉ちゃん！

バケツの水がタツヤにかけられる。

タツヤ
――！

マスター……。

マスター
なに寝言いつてんだ？おまえ

タツヤ
……

マスター
心配すんな 広志は帰らせた 今日店も終わりだ あんな騒ぎじゃ
商売どこじゃねえからな

タツヤ
……

マスター
しかしまあこつぴどくやられたね

タツヤ
マスター オレなにもしてねえのに殴られたんです オレはなにもし

てねえのに――

マスター
（タツヤにハンカチを投げ）いいから血イ拭け

タツヤ
あいつイカてんです オレなにもしてねえのにあいつ――

マスター
拭けつてのいいから

タツヤ、ハンカチで血を拭く……外を走る、パトカーの音。

マスター
（窓から外を見て）まだうろちよろしてやがる まあこんな機会に過

激派共と一緒にゴミ（を）一掃するつもりなんだろうけどなあいつら
も まあわからんでもねえけどなその気持 ゴミは汚ねえからねえ

（立ち上がり）帰ります お疲れさまでした

マスター
でどうする？

タツヤ
… はい？

マスター
おまえも辛いだろ？ こんな揉め事あつたんじゃこの店にいるの

タツヤ
……

マスター
広志のバカはおまえが辞めねえならおれが辞めるなんて言ってるし

タツヤ
マスター 紘治さん（を）売ったのオレじゃないです

マスター そんなこと言ったか？おれ

タツヤ 本当です オレじゃありません

マスター おまえ随分仕事変えてんだってね東京来て 最初が渋谷のフルーツ屋

川崎のクリーニング 新橋の米屋 阿佐ヶ谷の牛乳配達 池袋の電気屋 たった三年で二十カ所以上 どうせここもそのつもりだったんだろ？ っていうかおまえ 横浜で外国船忍び込んで 密航までしたんだってね

タツヤ ……

マスター 不思議か なんで知ってるか 保護士が来たんだおまえの おまえね 保護士から逃げ回ってこうしたとこ潜り込もうって魂胆 それどうなんだろうね

タツヤ みんな同じじゃないスカそんなの 広志や修だって同じじゃないスカ
マスター …… なんだだろうね おまえのそういうとこ

タツヤ だからなんでオレだけスカ！

マスター こっちはおまえのことならなんでも知ってたんだ おまえの過去 全部
タツヤ ……

マスター 刑務所生まれなんだろう！テメエは！

マスターが青い写し紙を出す……。

マスター 本籍地 北海道網走市 呼人番外地生まれ

タツヤ ……

マスター 戸籍謄本だおまえの 修がおまえのアパートで見つけた 出身(は)

青森だつて言つてたよね？ 確かおまえ

タツヤ 嘘じゃありません 本当です

マスター 役所が嘘つくか？ あア？ どうりで東北訛り(が) ねえわけだ お

かしいと思つてたんだよ最初つから

タツヤ 違います

マスター いいかタツヤ 人間な 誰でもどこでも生きる権利があるなんて呑気
なゼンガクレンの戯言本気(に) してんじゃねえぞ それなりの場所

にはそれなりの人間しか住むことしかできねえの ナチのユダヤ人狩
り お決まりのガス室なおまえみてえな人間は ここで生きたいと

思うなら ヒトラーになんねえと駄目なおめえみてえな人間は ヒ
トラーにね！

タツヤ ……

マスター どうすんだ？ 辞めるのか？ 辞めねえのか？

タツヤ (戸籍謄本を拾う)

マスター だからどっちだつての！ 気色悪いな本当テメエは

タツヤ … はい

マスター だからどっちのはいだそりゃ？ 刑務所生まれは日本語も通じねえの

か!?

タツヤ 辞めます

マスター、封筒をタツヤの前に放る。

マスター 正式に雇ったわけじゃねえから本来ならあれなんだけど おれもそこ

まで鬼じゃねえ 研修分入ってる

ありがとうございます (拾い上げる)

マスター 食事代とクリーニング代はね——

タツヤ (封筒から取り出そうと) 出します いくらですか

マスター 計算して引いてある

タツヤ (ハンカチを差し出す)

マスター
なに

タツヤ
お返しします（ハンカチ）

マスター
バカかおまえ 餞別だ餞別

タツヤ
マスター

マスター
いいから出てけとつとと

タツヤ
修に千円貸してんです その金ください

マスター
： おまえつてのは本当——

タツヤ
嘘じゃありません

マスター
修！

修、出て来る。

マスター
これに千円借りてんの？

修
すみません！

マスター
——！

マスターに殴られ吹っ飛ぶ修。

マスター、財布より千円札を取り出し、床に投げ捨てる。

マスター 金輪際新宿うろつくな さつさと消えろ！ウジ虫

去る、マスター。

修 人チクってそんな楽しいか？おまえ

タツヤ ……

修、「網走番外地」を口ずさみながら去る……。

タツヤ ……

戸籍謄本を細かく千切るタツヤ……便器に投棄する……聞こえてくる、北の海……。

キヨウコ いいの？ また戻りたい？野宿生活

窓外に浮かぶキョウコ……。

キョウコ 本当 たまには海でも見たいよねエ こんな景色ばつか見てるとさア

同様に浮かぶ人形を背負った白い女——。

白い女 ——！ (悲鳴)

北海の上空を舞うウミネコの群れ——。
突然タツヤを照らす、懐中電灯の光——。

タツヤ (まぶしい) ……

遠く、都会の喧噪……。

声 　　そこでなにしてる？

警備員の服装をした男……。

タツヤ (顔が見え思わず後ずさる) ——

警備員1 待て なんで逃げる

タツヤ ……

警備員1 日本語わからんのか? チャンコロか それともチョンか?

タツヤ 野宿

警備員1 あ?

タツヤ 寝るとこないから… ここで野宿しようって

警備員1 バカかおまえ 第一入れるとこじゃないだろここは おまえみたいな

フーテン どつから来た

タツヤ ……

警備員1 どつから来たんだ おまえは

タツヤ すいません 出ます (千円札と戸籍謄本をバッグにしまい出ようと)

警備員1 (押さえて) なに隠した?

タツヤ え?

警備員1 (バッグを取り上げようと)

タツヤ (抵抗して払う)

警備員1 なに隠した 見せろ バッグの中

タツヤ オレはなにもしてねえ！

警備員1の手に千円札……。

警備員1 どしたこれ

タツヤ どうもしねえよ

警備員1 …… ちよつと来い

タツヤ なにもしてねえよオレは！

警備員1 いいから来るんだ！ (掴まえようと)

タツヤ …… (振り払う)

警備員1はポケットから警笛——タツヤ、逃げようと——押さえる警備員1——揉み合う、二人——「パン」という乾いた音。

警備員1
……

タツヤ
……
（見ると手には拳銃）――

警備員1
タツヤ

タツヤ
――！

思わずその顔面に向かって尚も連続二発発砲――。
……倒れる警備員1。

タツヤ
（再び拳銃を見て） …… あれ？

「打ちましたア（歓声）」 ……ラジオの野球中継……

団扇を忙しなく仰ぐ伸一しんいちが扇風機を持って入ってくる。
ラジオの前にはキャベツを抱えた伸一の妻……。

タツヤ
……

暑い、真夏の夜……。

伸一
（妻に）おい サイダーなかったか？サイダー
伸一の妻
……（応えず）

伸一、やかんの水をコップに注ぎ、タツヤの前に。

伸一 悪いな 水で我慢しろ（タツヤがジッと顔を見ているので）忘れたか？
親父の葬式で会ったろ

タツヤ

……

伸一 (笑う) 無理ねえな 同じ屋根の下で暮らしたのほとんどなかったし

突然轟音たて上空を戦闘機群――。

伸一 米軍基地があんだ近くに ベトナムのせいですつとこれだこの頃は

で? でもよくわかったなこの住所 誰に聞いた 伸次だろ ん?

タツヤ

……

伸一 (シヨートピースに火を付け) まとにかく 渋谷のフルーツ屋か?

あそこは今伸次たちが話つけに行つてつから そこはまあどうにかな
るとしてだ しかしまあとんでもねえことしてくれたもんだよおまえ
も

タツヤ

(バックを抱え込む)

伸一 伸次の話じゃおまえ昔からなんだつて? よく家出して ま密航なん

て家出のレベルじゃねえけどな 新聞沙汰にもなつてんだし (笑う)

どっか行くあてでもあったのか? 外国なんておめえ 本当独りだぞ

(そん) などところ行つちまつたら

伸一の妻

(ラジオのボリュームを上げる)

伸一

(妻に) おい 黙ってたってどうせジャイアンツ勝つんだからよ

伸一の妻、応えずキャベツを食べ始める……。

伸一

(ショートピースに火を付け) そいやあおまえ 走るの得意だったんだってな そんな才能あんなら有意義に使え 逃げ足ばつか速くなるんじゃないかって

タツヤ

……

伸一

だから黙ってねえでなんか言えおまえも 日本語忘れたか? 長い間 船ん中いたんで なんでやった 密航なんて大それた真似

轟音たて上空を戦闘機群——伸次、正……。

伸次

おうおう いたいた (タツヤを見て蹴りつける)

伸一

(奥を気にして) おい ガキやつと寝たんだ

伸次

(妻に) お邪魔しますね

伸一の妻 (応えず)

伸次 (伸一に) また太つたな さぞかしいもん食ってんじゃねえの？

伸一 バカ 女は食い物で太んじゃねえよ 性格で太んだ性格で

伸次 (笑う) どんな性格だよ

伸一の妻 ジャイアンツの土井のファンよ

伸次 ∴ そりゃ渋いや (正に) な

伸一 いいから 金どした？

正 赤つ恥かいたよこいつのせいで

伸次 おまえいいから (黙ってる) 給料どころか赤字だこいつの場合

伸一 じゃ金は

伸次 反対に請求されたよ (タツヤに) っていうか背広の月賦も残ってんだ
つて？おまえ

伸一 (紙片を出し) おい どうすんだ？これ 船会社からの食事代と運賃
二万五千円

伸次 無視すりゃいいんだよこんなんは (紙片を便器に棄てる)

伸一 伸次 だつて連絡来んのオレんとこだぞ

伸次 知らねえ振りしてりゃいいんだつて 別に正規の運賃踏み倒したわけ

じゃねえんだしこのバカだって（タツヤに）な

伸一
伸次

伸次（タツヤを叩き）いいか（伸一を示し）兄ちゃんの言うことよく聞いて

て 今度こそまじめにやれ 約束だぞ

伸一 ちよつと待てよ そのことだけどな――

正 身元引受人だろ

伸次 おまえいいつつたろ

伸一 名目上はそうだよ確かに

正 なんだよ名目上って

伸次 正（伸一に）兄ちゃん 引き取んなきゃ練馬行き 鑑別所なんて入れてみ

てみ 格好の餌食だこんなの

伸一（小声で）女房だつてびつくりだ いきなりヤクザみてえな傷つけた

弟来て 一緒に住めつたつて おまえらまだ独り身なんだし

正 自分の家だろ

伸一（妻に）おまえちよつと向こう行つてろ ガキ起きたらマズいだろ

伸一の妻（動かず）

伸一 …… ここは女房の家だ 言つたろ？ 婿養子だぜオレ

伸次 正は夜間高校通って受験勉強 オレは朝から晩までトラックの運ちや

ん 引き取りたくても引き取れんだろ？

伸一 わからんか？ こんな狭い所で女房と二人 おまけにガキまでいて

日干しになれってか？オレに

オレたちはいつも日干しだったよ

正 (正に) うるせえつての！ (伸一に) 兄貴はよ 曲がりなりにも一番

上なんだし な？ 昔オレたちが青森にいた頃だつて金一つ送つて来

なかつたんだし こういう時に兄貴らしいことやってさ 罰当たんね

えよ？

伸一 そういうこと言うのかおまえ

正 当たり前だろ！

伸次 黙れつて言つてんだろ！

伸一 だからうるせえのおまえだろ 大体こいつ家出するようになったの誰

のせいだ？ え？ おまえ (伸次) が殴つて虐待ばっかしてたからだ

ろ？ (正を示し) 聞いたぞ (正に) だろ？

伸一の妻、出て行く……。

伸一 人間はみんな一人で生きていかなきゃあ駄目なんだよ みんなそうなんだよ ^{ニッポン}日本はあれだ 自由のシユギコツカだゾ (伸次に) 鑑別所だつておめえ社会勉強の一つだと思えやあよ

正 兄ちゃん

伸一 面倒みることねえだろつての 子どもじゃねえんだこいつだつて今は

正 こいつ今までどんだけ問題起こしたか知ってんのか？

伸一 だから聞いたつての (伸次に) な

正 家出だけじゃねえよ 学校だつてまともに行かねえし こんな都会に独りにしといたらわかったもんじゃねえんだよいつまた迷惑かけるか 密航騒ぎじゃすまなくなるかもしれないねえんだよ 兄ちゃんだつて真面目にやつて来たんだろせつかく 水の泡だぞ下手したら

伸一 じゃ送り返せ青森に 万が一田舎ならオレたちにも迷惑かからんなかやるつたつてたかが知れてる だろ？

正 帰るわけねえだろあの人のいる家にこれが

奥で子どもが泣き始める……。

伸一 …… じゃ病院入れりやいい 姉ちゃんの

白い女 (「骨まで愛して」を口ずさんでいる)

窓ガラスの向こうに、人形をおんぶ紐で背負う女……。

伸一 だつてあれだろ？ ああいうところはこつちからキチガイだつて言えば

入れてくれんだろ？ いいじゃねえかちようど こいつ姉ちゃんに一

番懐なついてたんだし(タツヤに) な なにもしねえで三食寢床保証付き

天国だ

伸次 これでタツヤまで入ったらうちは完全にキチガイの血統だな

伸一 いいじゃねえかもう関係ねえんだしオレら あの家とは

正 誰のせいだと思つてんだよ姉ちゃんあなつたの あんたが帰つて来

てくれりや姉ちゃんだつてあんなならずにすんだんだよ！ オレら

だつて網走で乞食みたいにならずにすんだんだよ！

伸一 おれのせいだつてのかなにからなにまで！

伸次 じゃ誰だよ！

女の声 (物が投げつけられる音) ふぎけんじやないよ！ 泣けばいいつても

んじゃねえんだよ！（泣き止まない）泣くなつて言つてんだろ！このゴクツブシ！

ふたたび物が投げつけられる音——泣き声。

タツヤ
（立ち上がる）

正
タツヤ

伸一
なんだよ

タツヤ
……

伸一
なんだつて聞いてんだよ（！）気色悪いな本当テメエは

タツヤ
金さえ送つてくれりゃあこんなならずにすんだんだよ おまえらが

金さえ送つてくれりゃ こんなならずにすんだんだよオレだつて！

タツヤが吹っ飛ぶ——伸一が殴りつけた。

伸一
燃やすぞ 甘つたれたことしか言えねえんならとつとと出てけ！

電車の轟音――。

キョウコが立っている……ラジオでは野球中継……。

タツヤ

(窓ガラスを見る) …… (女はいない)

キョウコ

(キャベツを差し出す) おみやげ

タツヤ

(キョウコを見る) ……

キョウコ

なに

タツヤ

……

キョウコ

(手を叩く) おうい 起きてるウ? (笑う) つていうか昨日の夜どこ

いたの 映画館にもいなかっただし また野宿?

タツヤ

(落ちている団扇に気づき拾い上げる)

キョウコ

(タツヤの手から団扇を取り) 忘れもんよ 昨日の客の (投げ捨てる

) ほんとしつこくてさ なにかつていうと戦争の話ばっか 現地の女何

人犯^やつたとか マレーの女は最高だったとか

「打ちましたア（歓声）」——盛り上がるラジオの野球中継。

——タツヤ、ラジオのチューニングを変える。

「——高校にゲバ棒、ヘルメット姿の高校生三十人余りが乱入し、建物の一部を占拠した模様です。これにより、授業は総て中止となり、再開の見込みも立ってはありません。高校生による学内占拠は、これで今年に入り、三件目となりました。次のニュース。昨夜午前三時頃、東京プリンスホテル敷地内に於いて、同ホテルの警備員、赤沢稔みのるさん二十七才が、血まみれになって倒れているのが、同僚により発見されました。赤沢さんは、頸部けいぶに二カ所、左こめかみに一カ所、計三発の銃弾を受けており、至急、慈恵会医科大学付属病院に収容されましたが、膜下出血に基づく脳挫傷により、死亡しました。警察では、銃弾がいずれも至近距離から発射され、また顔面に集中していることから、怨恨による犯行ではないかとみて捜査を開始しております。万国博覧会まであと二百日を切りました大阪の本会場では——」

ラジオを切るタツヤ——。

タツヤ 店 …

キヨウコ ん？

タツヤ 店辞めた

キヨウコ …… (笑う) ね 気づかない？

タツヤ …… 聞かねえのか？理由

キヨウコ (扇風機を示す) ジャーン 思い切って買っちゃった 月賦だけど

タツヤ、キャベツを貪り食う。

キヨウコ ね ちゃんと噛んで食べたら？

タツヤ アドルフ・ヒトラー知ってるか

キヨウコ え？

タツヤ ユダヤ人(を)何百万人ぶつ殺したヒトラー

キヨウコ タツヤ？

タツヤ ヒトラーは貧しい兵隊だった でも最後は国の頂点に立った 貧しい

男が立ち上がり 醜いユダヤ人をぶつ殺す わかるか？ 一人の英雄
が生まれるためには 何百万という知らない人間が生け贄になるんだ

キヨウコ ……

タツヤ …… (叫び始める)

キヨウコ ちよつと止めて まるでキチガイ!

タツヤ、突然キヨウコを押さえ込む。

キヨウコ …… なに で 自分が英雄にでもなつたつもり?

タツヤ ……

キヨウコ 昨日のオヤジと同じ きつとあの人もそうしてマレーの女犯おつかしてたんだわ

タツヤ、キヨウコのシャツを剥ごうと——キヨウコ、タツヤを突き飛ばす。

キヨウコ バカにしないでよ

タツヤ なに格好つけてんだよ今更よオ バイドクがよオ!

キヨウコ 抜きたきやトルコ行きな 金ならくれてやるから (金を床に投げ捨て

る) ホラ!

タツヤ … おまえも同じかよ

キヨウコ はアツ?

タツヤ おまえも同じかよ!

キヨウコ なんなの ホントまるでキチガイ

タツヤ … じゃなんているんだここにおまえは

キヨウコ あたしがどこにしよう^とあたしの自由じゃない

タツヤ でも邪魔なんだろ!? おまえもオレが!

キヨウコ ね なんなの一体?

タツヤ 言え! 邪魔なんだろ!

キヨウコ 邪魔よ! これでいい?

子どもが泣き始めた……。

タツヤ (耳を押さえる)

キヨウコ だつてそうじゃない 店を辞めた? ヘエ 結構な御身分 でどうす

るのこれから? また港の人足(に)逆戻り? それとも毎日ブラブ

ラするわけ？ あたしの稼ぎ頼りに ヒモみたいに

タツヤ だつたら出てけ オレが気に入らんなら出てけよ（出そうと）

キヨウコ （払つて）甘つたれたことばつか言つてんじゃねえよ！ 誰がここの

家賃払つてると思つてんの？ 誰があんた食わせてると思つてんの！？

ここはあたしの家でもあんの！ あんたこそ出てけば？（あたしが

）気に入らんなら！ 他に行く場所あればの話だけど？ 結局ここに

しか帰つてこれなくせして大きな口叩くんじゃねえよこのゴクツブ

シ！（奥に）つてか黙らせろよ！ 泣いてんだろがよ！

タツヤ、ローマン ~~ズ~~ III を取り出し、キヨウコに構える。

キヨウコ ……

キヨウコ …… あんたさ そんなオモチャ振り回して面白い？

タツヤ オモチャじゃねえ

キヨウコ イカれてる（頭を示し）ラリハイのやりすぎ

タツヤ 言つたら おまえなんか風船みたい（に）簡単にぶつ殺すことできん

だオレには

キヨウコ どうぞ ご勝手に

タツヤ 脱げよ 服(を) 脱げ

キヨウコ (笑う) なに やりたいわけ? あたしと

タツヤ ブツ殺されたくなかったら脱げ

キヨウコ ガキに見せるほど安くねえよあたしの身体は!

タツヤ おまえみたいなのが 何百万つていない人間(を) 生みやがんだろ

見せろよ そんな人間ばつか生みやがる キツタネエ裸をよ!

キヨウコ —— (少女のように顔を覆いしやがみ込む)

タツヤ ……

キヨウコ、立ち上がり服を脱ぎ捨てていく——シャツを脱いだ時、肩から背中にかけてケロイド状に広がる醜い傷——タツヤ、目をそらす……。

キヨウコ どしたのよ? 見たかったんだろ? ちゃんと見ろよ! このキツタ

ネエ裸をよ! (泣いている)

タツヤ ……

キョウコ、缶ビールを開け、飲む……。
力なく回る扇風機……。

タツヤ よくできんな… そんなんで商売

キョウコ ヤル前にラリつてもらうんだよ

タツヤ ……(服をキョウコに投げつける) 着ろよ

キョウコ ……

タツヤ 風邪ひくんだろ

キョウコ 真夏だよ今は

タツヤ とつとと着ろよ!

修 あれえ なんかヤバイところ来ちゃったかなア?

広志、修……電車が通り過ぎる――。

修 ムシヨ生まれとチョンが仲良くヘコヘコかあ?

広志 おまえよ まだここにいたのか マスターに言われたろ? 新宿うろ

つくなつて 約束は守らねえとよ え? (タツヤを突き飛ばし、室

内へと上がり込んでくる)

キョウコ 広志 申し訳ないけど靴脱いでくれる？ 人の家に入るときはさ

広志 アメリカ育ちなもんでね

キョウコ …… なんの用よ

修 とぼけんなよ

キョウコ あんたには聞いてないよ イロガキ

修 チョンが粹がつてんじゃねえよ！

キョウコ なんの用だつて聞いてんだよ！

広志、キョウコを殴りつける。

広志 おまえ またうちの店で客取つたら

キョウコ …… 知らないね

広志 修が見てたんだよ だろ？修

修 (「朝鮮人が日本語を話す体で」タメよ トボケルタメよお

広志 約束は守らねえとよ キョウコ

修 はじめようぜ

室内に、大きな赤い布が敷かれる……。

キヨウコ …… なんの真似よ

キヨウコ なによ どうするつて言うのよ。

広志 おまえが約束守らねえからよ オレたちが代わりに果たしに来たんだ

よ

修 グラビア モデルんなるつて言っただら？ (タツヤに) な (ふたた

びキヨウコに) おめえみてえなチョンと違つて 死んでも約束は守んだよ 日本人は

キヨウコ (笑う) 冗談じゃないよ 絃治に頼まれたのあたしは (タツヤに)

でしょ？ 第一絃治もいないでなんであんならがグラビアだよ

絃治 呼ばれて飛び出て ジャジャジャジャーン

絃治である。相変わらず、団扇を振っている。

キヨウコ ……なんでよ なんでいんのよあんながここに (！)

絃治 親父の関係でいい弁護士付けてもらつてな 証拠不十分つてやつか？

修 親父 大企業だしな

絢治 よろしく頼むぜ 昔のよしみで激しいヤツをよ

キョウコ、絢治を殴りつける——すぐに絢治が殴り返す。
キョウコが吹っ飛ぶ……鼻血……。

修 (撮影)

絢治 悪リイな 留置場なんて押し込められて 溜まりに溜まってんだこつちも

広志 タツヤ 黙ってねえで言うことねえのか？なんか (絢治に)

タツヤ ……

広志 (絢治に) あやまれて言っただよチクつたの 悪いことをしました すいません

絢治 よせ 相手すんな (そ) んなの

修 ケジメとらせねえとよちやんと

絢治 できるわけねえだろこいつに (タツヤに) な？ オレをチクるなんて

真似 大体察しはついてんだ なアキョウコ

電車が通り過ぎる……。

キヨウコ

勝手にしな どうとでもしな！ 望むとこだよ あたしのうすぎたね
えバイドク あんたらのセカイに蔓延させてやつからさア そのかわ
り早く済ませてよね まそんな心配しなくても あんたはハヤイから
大丈夫だけどね

キヨウコ、その赤い布の上に大の字に横臥する。

聞こえてくる北の海……。

キヨウコ

さあ！ 早く始めな！

絃治

修 ガツチリ撮れよ

修

(カメラを構える)

キヨウコ

タツヤ あんた終わるまで外にいな

絃治

いいじゃねえか 見せてやれよ あいつだって見たいとよ おまえの

裸

タツヤ、その場で走り始める……。

修

やっぱキチガイだこいつ（笑う）イカれてる

キヨウコ

出てなつてんだろ

広志

動くなよ（押さえつける）

タツヤ、その走りは段々と早く——それに呼応し、高鳴って
いく北の海——。

キヨウコ

出てなつて言つてんだろタツヤ！

広志

動くなつての！

絃治

（注射器を手に行している）

キヨウコ

なによそれ：薬は使わないって約束じゃない！

絃治

気持ちが良いなる ラリハイなんて目じゃねえ

キヨウコ

ヤア！（もがく）

修

（喜んでいる）いいぞいいぞ！（撮影）

絃治

広志！

広志

おとなしくしろってんだよ！

キヨウコ

タツヤ助けて

タツヤ、全力疾走へ——高鳴る北の海。

紘治

今までのほただの娯楽だからよ 見せてやるよ 本物のゲイジユツつ
てやつをよ！

キヨウコ

タツヤあ！

響き渡る女の悲鳴——辺りは流水と共に打ち寄せる、極寒の
オホーツク。

タツヤ
 ……(激しい息切れ)
 白い女
 タツヤ?

北海の上空を舞うウミネコの群れ——辺りは流水と共に打ち寄せる、極寒のオホーツク。

白い女
 走ってきたの?

タツヤ
 ……

白い女
 どこにもいかないよ 走らなくなつて

タツヤ
 好きなんだ走るの 頭はいらぬ いるのは足だけ

白い女
 ……(ジッとタツヤを見て) 本当にタツヤ?

タツヤ
 なんで

白い女
 いきなり大きくなつたみたい

タツヤ
 …… 姉ちゃん 色々あつたんだ もう網走にいた頃のぼくじゃない

白い女

……

タツヤ

オレは今 考えなくちゃいけないんだ なんでオレがこんななつち
やったのか ……どうせ死ぬんなら バカのまままで死にたくないんだ

白い女

タツヤ タツヤは馬鹿じゃないよ 大丈夫 もう少し大きくなったら
わかるから

タツヤ

言つたら もうあの頃のオレとは違う だってオレ もう女だつて知
つてるんだ

赤い布に横臥したままのキョウウコが浮かんでいる……。

タツヤ

… その女むのアソコ 紫色だつたよ …… 無い方(が) いいよあんな
の… 可哀想だよ 女の人

白い女、赤い布に人形を置き、一冊の本を出す……。「カラム
ーゾフの兄弟」……。

白い女

ここよりももっと北に ロシアつて国があつたの これは そんな寒

いとこで生きていた ドストエフスキーって人が書いた小説

タツヤ
(手にする) ……

白い女
大きくなったらいつか読んでみて タツヤならきつとわかるから

キョウコ
(起き上がり、ショートピースに火をつける) ……

タツヤ
……

白い女
(「骨まで愛して」を口ずさむ)

タツヤ
姉ちゃん 最後にもう一度 あそこ行きたかったよ 姉ちゃんがよく
連れてってくれた橋 網走の 海が見える橋
……

タツヤ
あの橋の上でぼくはずっと待ってた 小さな両手で橋の欄干につかま
つて 両足をブランブランさせながら でも誰も来なかった 姉ちゃ
んも来なかった 兄ちゃんたちも来なかった ……母ちゃんも 誰一人
あの時からオレは 独りになっちゃったんだ

白い女
この橋(を)渡って ずっと南に行くかね 東京に着くんだよ この
子(人形)が大きくなったら一緒に行くの この橋(を)渡って あ

の人のいる東京に

タツヤ
姉ちゃん……

白い女
ん？

タツヤ
(女の足を示す)

白い女、スカートをたくし上げると股から流れている血……。

白い女
……(ニタリ)

タツヤ
姉ちゃん！

北海の上空を舞うウミネコの群れ——。

タツヤ
——！

突然タツヤを照らす、懐中電灯の光——。

声
そこでなにしてる？

遠く、港の喧噪……近づいてくる警備員2（団扇を手にあおいでいる）……。

警備員2 さつさと出ろフーテン

タツヤ ……

警備員2 聞いてんのか？ 面倒かけんなこのクソ暑いのに

警備員2、タツヤを連れ出そうと、それを払うタツヤ。

タツヤ あんた誰だ

警備員2 …… おまえ（頭を示し）大丈夫か？ 暑さで頭やられたか？

タツヤ あんた誰だ

警備員2 おまえこそ誰だ

タツヤ ……

警備員2 なんだその眼 言つとくがな オレが貴様らくらいの頃は戦争してたんだよ戦争 本気にさせるな さつさと出ろ

タツヤ オレがどこにいようとオレの自由だろ

警備員2

おい 大人なめるなよ なにが自由だ まったく近頃の若いヤツは 昨日もな なんか凄い格好をした貴様ぐらいのやつらがフリーセックスとか言うのか？ ここで 犬みたいにへこへこオマンコだ

赤い布上には、人形を抱き、煙草をくゆらすキョウコ……。

警備員2

世の中なんだと思ってる おまえのその髪の毛だつて なんだ？ それあれだろ ボブ・ディランとかいう毛唐の真似だろ 誰のおかげでそんな好き勝手できると思ってた？ 少しは戦争で死んだ人間に申し訳ないという気持ちはないのか？

タツヤ

戦争させたの誰だよ

警備員2

… なんだつて？

タツヤ

兄ちゃんさえちやんとしてりゃあよ こんなならずにすんだんじゃねえのかよ！

警備員2

… おまえ 本当（頭を示し）病院行くか？ 病院

拳銃を出し、警備員2の顔に突きつけるタツヤ。

警備員2

おい そんなオモチャ振り回して面白いか？ 言ったら？ 戦争したことあるんだこっちは――

「パン」――。

タツヤ

……

タツヤ、尚も警備員2へ弾丸を打ち込む――。

煙草をくゆらすキョウコのいる赤布上に倒れる、警備員2。

――鳴り響くラジオ。

「ただ今速報が入りました。昨夜、午前五時三十分頃、横浜埠頭、湾内に於いて、日本警備株式会社、同社員、柳沢善三さん四十六才が、血まみれになって倒れているのが発見されました。柳沢さんは、顔面及び、頭部に、計四発の銃弾を受けており、殆ど即死の状態だったもようです。くり返します。昨夜、午前五時三十分頃、横浜埠頭の湾内にて、日本警備株式会社の社員、柳沢善三さんが、顔面及び頭部に計、

四発の銃弾を受け、死亡しました。」

伸次 兄ちゃん 二度と関わりたくねえとよ もうおまえとは

伸次……。

伸次 つていうか 金盗むのに米軍基地？ 度胸あんのかほんと（頭を示し

）イかれてんのかわかんねえなおまえも

タツヤ ……

伸次 黙ってねえで言うことねえのかなんか

タツヤ 汚ねえんだよ

伸次 あ？

タツヤ 給料だつて食事代と宿泊代だつてことでほとんどもつてかれた 会社
からの定期代だつて半分しかくれなかった 面倒どころか 巻き上げ
られてばつかだつたんだよオレは

伸次 タツヤ

タツヤ （防戦の体）

伸次 … 殴らねえよ 餌食にされたんだろどうせ鑑別所で随分 大体殴つ

て言うこときく年でもねえんだしおまえだつて

タツヤ ……

伸次 あのな 金に困つてたんなら言やあよかつたんだ そりゃ兄ちゃんだつて博打の借金で首(が)回んなくなつてたんだろうが黙つてたらわからんだろ兄ちゃんだつて

タツヤ 言つたつてわかんねえよ オレのことなんか眼中ねえんだしどうせ

伸次 なんて決めつける 鬼じゃねえんだ兄貴だつて

タツヤ かばうのか? 言つたら兄ちゃんだつて 誰のおかげで網走で乞食になつたんだよ

伸次 (ビンタを張る) だからいいのかつての あんな真似して!

タツヤ ……

伸次 大体なんで米軍基地だよ 金盗とならあんだろもつと普通んところが

いくら(頭)足りねえおまえでもわかんだろ? ああしたところが警戒
嚴重なことくらい それともわざとか? 当てつけか? 捕まつてお
れら困らせようつて

タツヤ ……

伸次 とにかくどうすんだこれから 保護観察もついちまったし 今度こそ

タツヤ 本当真面目にやんねえと鑑別所じゃすまねえぞ 年少行きだぞおまえ
駄目なんだ

伸次 あ？

タツヤ 職が見つかったも そのうち決まって戸籍謄本見せろって話になって

こつちが見せると… 結局いられなくなる その繰り返しなんだ

伸次 ……

タツヤ 兄ちゃん あん しばらくいきしてくれよここ 港の日雇いしながら仕事見

つける いくらぶん殴ったっていい 仕事が見つかるまで

月子 いいんじゃない？ 身元引受人にもなったんだし

月子……。

月子 この人だつて仕事もしないで一日中パチンコ通い

伸次 出てくんなって言つたら（タツヤに）同居人だ 一緒に住んでる

月子 今じゃ立派なヒモ稼業

伸次 （掴まえようと）だから行つてろつての

月子 (逃げてタツヤに) サイダー 飲みな 冷たくておいしいよ

サイダーの瓶を開け、タツヤの前に。

月子 悪く思わないでね 頭よかつたんでしょ? この人 なのに結局集団就

職 自分よりもできの悪い都会の大学出にこき使われてさ ひねくれ
ちやつてんのすつかり

伸次 うるせつての

月子 大丈夫 あんたらあたしと違ってここ(頭)のできが違うんだし あ
んただつてこんなの読んでき(タツヤの本)カラマーゾフの兄弟 ド
スト…? なに人これ?

タツヤ (本を奪い取る)

大丈夫 あんた度胸あんだしこの人と違って 普通できないよ 米軍
基地に忍び込むなんて真似

タツヤ 殺してくれるかなって思ったんだよ もし見つかったも 軍隊ならこ
んなキチガイ脳みそ飛び散つて死ねんだろ 自動小銃とか機関銃で撃
つてくんだから

赤い布上の警備員2（伸一）が、起き上がる――。

伸一 死ぬなら外で死ぬ 独りで

タツヤ ……

月子 大丈夫 この人だって何度警察に呼ばれたか知れやしない どうかなるって

タツヤ おれがキチガイ扱いされたの 姉ちゃんのせいなんだぜ

月子 ……？

タツヤ 安心しろよ あんたらの世話にはなんねえからよ

月子 ね ちよつと待って どうしたの？ なに？ 姉ちゃんって

タツヤ どうもしねえよ どうにもなんねえんだよオレはもう！

月子 だってどうすんの？ 独りじゃ無理でしょ？

伸次 タツヤ 逃げ回る場所があるうちはまだいい でもそのうちどこにも逃げられなくなる そうなったら終しまいだ 追いつめられたネズミがなんとやらってな

タツヤ ねえよ逃げ回るとこなんか あの橋の上に置き去りにされたときからどこにも

伸次 …… なにが言いたい

タツヤ どうにもなんねえんだよ！ オレはもう！

赤い布上のキョウコ、人形を後ろに隠し——轟音をたて、電車が通り過ぎていく——。

室内にはタツヤとキョウコだけ……。

キョウコ おかえり

タツヤ ……

キョウコ また野宿？

タツヤ 海

キョウコ え？

タツヤ 海 見に行かないか？ 一緒に

「昨夜起きた、横浜埠頭での射殺事件についての続報です。警察が被害者の頭部から検出した銃弾を調べたところ、凶器に使用された拳銃は、三日前、東京プリンスホテル敷地内で使用された拳銃と、同じも

のであることが判明しました。これにより、二つの事件は同一人物による犯行である可能性が高く、警察は、連続射殺事件として事件の解明に当たっている模様ですが、二件共、犯行時刻が深夜で、人通りも少ない場所が選ばれている為、目撃者も期待出来ないことや、事件が通り魔的、且つ、理由なき犯行の色合いを帯びていることから、捜査の難航は必至とみられています。ニュースでした。」

ラジオは音楽番組を始める。

赤い布の上で、タツヤは上半身裸、キョウコも同じく下着姿の格好……。

遠く海が聞こえ、二人はジッと窓の外を見つめている……。

タツヤ

トタン屋根 並んでるだろ あの長屋の一番右端 便所の通風口（が

）出てるのが共同便所で あのすぐ隣がオレの家だ

キョウコ

ここがタツヤの故郷

タツヤ

… 生まれたとはもつと北の町 その頃のこととはよく憶えてないんだ

記憶がハッキリするのは この町に来てからだし

キョウコ

……

タツヤ

みんなマーケットって言った 戦争が終わって 元々は外地からの

引き揚げ者用に国が臨時に作った堀っ建て小屋 でも結局 どこにも

行き場のない人間が今もああして棲みついでる 変わんないんだ い

くら豊かになってもあそこだけは

キヨウコ、ショートピースに火をつける……。

タツヤはキャベツを食い始める……。

キヨウコ 行かないの？会いに

タツヤ ……

キヨウコ お母さん せっかく来たんだし 汽車に揺られてこうして

タツヤ ……

キヨウコ じゃなんで来たの わざわざこんな海なんか

タツヤ 確かめたかった オレがどんなところで生きてたのか この眼でもう一度

キヨウコ わかんないなそういうの あたしにはないし あんたみたいなそんな
文学趣味

タツヤ 走って新聞配達してたとき 兄ちゃんに殴られてたとき 母ちゃんが
男と寝てたとき 独りでその間 映画館（に）入り浸ってたとき オ
レは一体 なに考えてたんだって

キヨウコ お父さんは？ お母さん男とそんなことしてる間

タツヤ 親父は死んだ ずっと昔に

キヨウコ (笑う) じゃ仕方ないじゃん 可哀想だよそこまで言ったらお母さん

タツヤ 眼中なかった 自分が生んだ子どもなんか

キヨウコ 女が子どもを生むと母になる あんなの嘘っぱちよ 女は生まれて死

ぬまでやつぱり女なんだし

タツヤ だから捨てたのか?

キヨウコ ……

タツヤ 捨てたんだ 自分が生んだ子ども置き去りに 寒くて いつも腹すか

せてた記憶しかない 兄ちゃんたちの話じゃ 港で魚拾ったり 銅線

盗んで金にしたり 乞食みたいなこともしたって でもオレは小さい

から 兄ちゃんたちが拾ってきたもの(を)ただ食うだけ 邪魔者もん

ゴクツブシ

伸次 あやまれ おれたちにあやまれ

伸次……。

伸次 悪いことをしました すみません

タツヤ あれだけ憶えてる 兄貴たちに 布みたいなの顔に被せられて

伸次 あやまれつつ言っただよ!

タツヤ あそこで殺してくれてりや でも結局 福祉事務所に見つかつてこ

の町に連れて来られた オレたちを捨てた母ちゃんのいる あのトタ
ン屋根の家に

キヨウコ 日本が戦争に敗けてね 焼け野原しか残らなかつた時 もう戦争は止

めましようつて これからは平和を大切にしようつて ハトのマ
ークの付いた煙草作つただつて それがこのピースなんだつて

タツヤ ……

キヨウコ あたしも小さいときさ 父ちゃんとあたし置き去りにして 国に帰つ

ちやつたんだよね母ちゃん あの国はほら 楽園だつて言うし 男と
二人で…

月子 (「骨まで愛して」を口ずさむ)

月子が伸次に寄り添う……それを夕焼けが染めている……。

キヨウコ

こんな色してたよ あの日の空も 父ちゃん ガソリン撒いて火つけ
て… でもおかしいんだよね そんな目(に) 遭わされたのに どっ

かでまだ逢いたいと思ってる 切ろう切ろうって思っても 切れてくれないのが親子

(物が投げつけられる音) ふざけんでねえ! (ふたたび物が投げつけられる音——泣き声) このゴクツブシ!

タツヤ、キョウコの背中におぶさる。

キョウコ

なに? (いきなり) 重いヨク

キョウコ、降ろそうとするがタツヤは離れない。

タツヤ

いつもオンブしてくれたんだ こうして

キョウコ

… お母さん?

タツヤ

姉ちゃん

キョウコ

じゃ逢いに行く? お姉さんに

タツヤ

ここにはいない 今は海が氷る港町の病院にいる 北の町……

キヨウコ ……

タツヤ 姉ちゃん ダメになったんだ 子ども墮ろしてからダメに

キヨウコ いいよ 一緒に行ってもこのまま タツヤの生まれた町

絃治 (シヨートピースに火をつけ) おまえ 戸籍謄本出せって言われたろ
マスターに

絃治……。

タツヤ ……

絃治 田舎のおかんに言やあ送ってくれる キヨウコに言われてマスターに
紹介したのオレだぞ 顔つぶす気か？

キヨウコ (「骨まで愛して」を口ずさむ)

海……。

正 タツヤ 青森の母ちゃんとか帰れ それがおまえのためだ

大学生の学帽と制服姿の正……。

正

仕方ないだろ まともな仕事にも就けない 就いたら就いたで問題ばかり いくら馬鹿でもいいかげん理解したろ 自分みたいな人間は都会じゃ生きていけない 青森に帰るしかない

タツヤ

オレたち(を)捨てた母ちゃんどこにか(!?) 網走にオレたち置き去りにした!?

正

タツヤ

タツヤ ずっと我慢してきたんだ 我慢して我慢して我慢して！ オレがあんな女から学んだのはこれだけだ がマン これだけ！ そうして中学卒業してやっと逃げて来れた 兄ちゃんだってそうだろ!? あんなところ戻るくらいなら死んだ方でした！

正

じゃなんで逃げ出した伸次兄ちゃんところ せつかくなつてくれたのに 身元引受人

月子

カラマーズフの兄弟 ドスト… 何人これ？

正

タツヤ ずっと居ろとは言わん ただ一旦帰って 考えろ少し これからどうしてくか 現に仕事できないんだし 言つとくが港の人足な

んて仕事のうち入らんぞ 第一あんなのやってるのはみんな乞食みたいな連中だろ おまえだつて寝る部屋とかもなくて野宿なんだつて？
ちゃんと風呂とか入ってるのか？ 自分じゃわからんだろうがすごい臭いだぞ

タツヤ できないんじゃない 真面目にやろうって思ってたんだオレだつて ち

やんと改心して真面目に

正 思うだけなら猿にでもできるんだ猿にでも

タツヤ なのに来るんだ保護司が でなんだかんだオレのこと言いふらしてだから辞めなくちゃならなくなるんだ

正 違うだろ おまえがすぐ仕事（を）辞めるから来るんだろ

タツヤ 違う あいつらが来るから辞めなくちゃならなくなるんだ

正 それが保護監察だろ それが保護司の仕事だろ 何様だと思つてんだ
おまえ自分のこと 自分の身分考えろ自分の身分！

タツヤ、バックの中から戸籍謄本を出す。

タツヤ じゃこれどうにかしてくれよ 兄ちゃん法律勉強してんだろ？

正 ……

タツヤ 番地つけてくれよ こんなんじやどこにも見せられないよ

正 おまえ本当バカだな 勝手に番地つけろつて？ 戸籍謄本に 大体番地

のない住所なんてのは日本中にあるんだよ

タツヤ (顔の傷を示し) この傷 憶えてんだろ？

正 ……

タツヤ いくらそんな理屈並べたつてな みんなして 刑務所生まれのヤクザの子みたいな目して見んだよ で結局辞めなくちやならなくなるんだよ

正 おまえ その被害妄想どうにかならんか

タツヤ なにが妄想だよ 誰がつけたんだよこの傷は！

正 おまえの下なんて世の中にはごまんといる おまえより下の人間はご

まんと でもみんな生きてるんだ 差別されても必死に

タツヤ でもそいつらは独りじゃねえだろ オレみたいに独りじゃねえだろ！

間。

正

(懐から財布を出し紙幣をタツヤの前に) これ 青森までの汽車賃な

タツヤ

……

女

大きくなったらいつか読んでみて タツヤならきつとわかるから

北海の上空を舞うウミネコの群れ――。

窓外に浮かぶ紘治……。

タツヤ

キョウコ

キョウコ

ん？

タツヤ

死のうか？

キョウコ

… なんて

タツヤ

……

キョウコ

そうね 生きてることにもそろそろ飽きて来たことだし

タツヤ、拳銃を出し、キョウコに向かって構える。

タツヤ

(映画風に) 動くオレのこいつが火を吹くぜ

キョウコ (同じく映画風に) 命だけは助けてください

タツヤ (映画風に) 悪いことをしました すみませんと言え

キョウコ ……

タツヤ (尚も映画風に) 悪いことをしました すみません あやまれつて言
つてんだよ!

キョウコ (改めて映画風に) 悪いことをしました すみません!

海……ショートピースをくゆらす絃治……。

キョウコ それが本物なら 本当に死ぬるね あたしたち

タツヤ、拳銃から銃弾を全弾抜き取り、改めて一発だけ入れ、
再びキョウコの眉間に銃口……ロシアンルーレット。

タツヤ (撃鉄を引き上げる) 確率は六分の一

キョウコ いいわよ (動かず)

タツヤ …… (構えたまま)

キヨウコ

(姿勢を崩し) なんか怖いなあ 本当出るみたい 弾が

タツヤ

出るわけないだろ これ オモチャなんだし

キヨウコ

(耳を押さえ目をつむる) … いいよ

引き金が引かれる——カチツ……。

タツヤ

……

キヨウコ

(笑う) ハズレ

「連続射殺事件に関するニュースをお伝えします。警察は連日に渡り現場付近の聞き込みを行っていますが、目撃者は今だ見つかっておらず、捜査は難航している模様です。又、犯行の際、使用された拳銃は、先月八日未明、横須賀米軍基地の宿舎に於いて盗難されたものであることが判明しました。尚、犯人は拳銃盗難の際、実弾約五十発も持ち出しており、未だ犯人の手に相当の実弾が残っていることから、ますます事件の再発が危ぶまれております。深夜の外出にはくれぐれもお気をつけ下さい。」

タクシー運転手と、アーミージャケットに身を包んだタツヤ。
 カーラジオからは「網走番外地」……。

タクシー運転手

(以下津軽弁で) なんか大変だね東京は そこいくと平和でいいね田舎は

タツヤ

……

タクシー運転手

兄ちゃんどつから来たの? それともこつちの人?

タツヤ

どこから来たように見える(?)

タクシー運転手

東京じゃないよね(?) でも青森でもないかな 訛らないし

タツヤ

ここよりもつと北

タクシー運転手

ああ北海道

タツヤ

ロシア

タクシー運転手

:(笑う) でも近頃なんだろうね 大学生とか 勉強もしないで街で暴れたり さっきの事件とか(も)? 世の中これだけ景気いいのに

タツヤ

タクシー運転手

タツヤ

タクシー運転手

タツヤ

タクシー運転手

さ なにが不満か知らないけど ちゃんとおまんま食べられて 住む家があれば人間それで幸せと思わなくちゃ ね なんだかんだ言ったっていい時代なんだし今は

運転手さん 悪いけど行く先変えてもいい(?)

どちら?

港まで

青森港?

港ならどこでもいいよ

： あれだよね むずかしい理屈はわかんないけどさ ちゃんとおまんま食べられて 住む家があれば人間それで幸せと思わなくちゃ ね

なんだかんだ言ったっていい時代なんだし今は(ラジオの「網走番外地」にノルような体で)うちなんかもね 息子まだ四つなだけどヤクザ映画の看板とか見ると キエー見る キエー見るって わかる? ほら ドス持って悪い奴に突つ込むとき言うの キエー 家でもね 箒(を)ドスの代わりに息子と二人 挑んでますよ母ちゃんにキエー! (笑う) そういえば兄ちゃん似てるよ 顔の傷 東映の役者さんみたい さては今日はコレ(小指)? 夜の港で渋く決める?(

笑う)

タツヤ あんたも似てるよ

タクシー運転手 私が? ご冗談 私は同じキエーでも東映より大映 ガメラ対ギヤオ

スキエー(笑う)

タツヤ とにかく変えて

タクシー運転手 あごめんごめん(チューニングを変える)

タツヤ あそこ

ボブ・ディラン 『風に吹かれて』……。

タクシー運転手 やっぱ若いね 私らにはさつぱりちんぷんかんぷん これもアレ?

アングラロックとかいうやつ?

……

タクシー運転手 教えてよ兄ちゃん 意地悪しないで

タツヤ オレさ 兄ちゃんに言われた通り考えたよ

タクシー運転手 はい?

タツヤ 一度は網走で死のうって でも生きること決めた せめて二十歳^はの

その日まで

タクシー運転手
兄ちゃんさ 生きてりやいろんなことあるよ みんなそう でも兄ちゃんは大丈夫だよ 若いんだもの とうにかなるのが人生 先は長いんだし

タツヤ
ここでいいよ

タクシー運転手
： 港 もうちよつと先だけど

タツヤ
ここでいい

タクシー運転手
(止める) 千九百二十円

タツヤ
ごめんね 金ないんだ

タクシー運転手
： はい？

タツヤ
金

タクシー運転手
兄ちゃん 冗談やめよ ここまで来て

タツヤ
でも大丈夫だよ なんとかするから

タクシー運転手
(タツヤに振り返り) だつてどうすんの？こんなところで

タツヤ、タクシー運転手の顔面に銃を発砲――。

タツヤ

…… こうすんだよ

タクシー運転手、倒れる――。

遠く聞こえる埠頭の音……。

タツヤ、運転席の金を取る。バラバラと散らばる小銭もかき集める……。尚も倒れたタクシー運転手のポケットを探り、財布を出し、中身を奪う。

タツヤは赤い布でタクシー運転手を覆う（屍体を隠す風）。

キョウコ

もう戦争は止めましょうって

窓外に浮かぶキョウコ……。

キョウコ

これからは平和を大切にしましょうって ハトのマークの付いた煙草作っただって それがこのピースなんだって

防寒服の男

ハシモトタツヤくんだね？

タツヤ

――！（とつさに拳銃を構える）

黒いコーモリ傘に、防寒服を着た男……。

防寒服の男
ハシモトタツヤ君だね

タツヤ
……

防寒服の男
怖がらなくていい 私はね 福祉事務所から来たんだ わかるかい？

フクシジムシヨだ

タツヤ
(あたりを見渡す)

遠く埠頭の波音は、いつの間にか冬の海音……。

防寒服の男
大丈夫 私は君の味方だ 君のお兄さんたちも さつき保護された

今は二人とも福祉事務所にいる 兄さんに聞いたら 君はこの橋の上
だって それで私が君を迎えに来たんだ

タツヤ
……

防寒服の男
大丈夫 私は君の味方だ 可愛そうに 寒いだろ そんな格好じゃ(

近寄ろうと)

タツヤ
いやだ！

防寒服の男

タツヤ君

伸次

あやまれ え!? おれたちにあやまれ!

逃げようとしたタツヤの前に立ちはだかる伸次。

タツヤ

……

伸次（警備員1の衣裳）……。

辺りは一瞬にして流水と共に打ち寄せる、極寒のオホーツク。

タツヤ

――

伸次

悪いことをしました すみません あやまれって言つてんだよ!

伸次の暴力がタツヤに炸裂――唸る北の海――。

伸次

なんであんなことした

タツヤ

……

伸次　　なんでしたんだあんなこと！

タツヤ　決めたんだ　せめて二十歳はたちの日まで

女　　タツヤ

伸次　　（胸ぐらを掴み上げ）なんで病院に行ったんだっての！　姉ちゃんの病院なんか！

伸次の暴力――。

伸次　　姉ちゃんがキチガイ病院入ったせいで　おれらが町の人間からどんな

目で見られてるかわかってんのか？　え!?　オレたちに恥かせてそんな楽しいか　おまえのおかげでオレたちがどんだけ迷惑してると思っ
つてんだ！

伸次の暴力――伸次は泣いている……。

伸次　　おまえがああキチガイに懐くから　結局はオレらみんなキチガイの血

統だつてことになつちまうんだ　結局はそういうことになつちまうん

正 だ おまえのおかげで オレらまでキチガイ扱いなんだ畜生！ あや
まれ！ オレたちにあやまれ畜生！（タツヤに向かおうと）
兄ちゃんこのくらいにしとこう な

赤い布を剥ぎ、正、立ち上がる（タクシー運転手の衣裳）

伸次 （払う）

正 まずいよ タツヤ本当に死んじやうよ！

伸次 オレたちは捨てられたんだ 今更誰殺そうと 誰が死のうと知ったこ
とか！

正 兄ちゃん

伸次 おまえだつて言つてたろ？ 寝小便ばかり垂れて厭んなる 泣いてば
かりで邪魔くせえ オレらが集めた食い物ただガツガツ食うだけの厄
介者もん キチガイ 言つてたろ？

……

伸次 言つてたろ!?

タツヤ 姉ちゃん ……姉ちゃん

窓外に女……。

正
タツヤあやまれ な 本当死ぬぞおまえ
タツヤ 姉ちゃん

伸次、ナイフを出す。

伸次 正 押さえろ

正 駄目だよ 兄ちゃん

伸次 押さえろって言ってるんだろ！

正 ……

伸次 早く！

正 畜生！（タツヤを崩れないよう押さえる）

伸次、タツヤにナイフを——逃げようとタツヤ——伸次のナ
イフがタツヤの顔面に——滴る血痕……。

タツヤ 痛えよ——！

伸次、ナイフを投げ捨て、うづくまる……肩が揺れている。
正は呆然の体……聞こえるのは伸次の嗚咽だけ……。

タツヤ ……母ちゃん

姉弟たち ……

タツヤ 母ちゃん

正、赤い布をタツヤに被せる——。

タツヤ (布の中から) 母ちゃん！

正 黙れキチガイ！

正がタツヤを押さえつける。タツヤは「母ちゃん」を連呼する、正はその声を押し潰そうと——伸次はそれを呆然と見つめている……やがてタツヤの反応は鈍くなつていく——。

正 (気配に気づき) ——!

伸一 … なにしてる

伸一 (警備員2の衣裳) ……。

伸次・正 ……

伸一、正を押しつけ、赤い布を取る。

タツヤの代わりに「人形」がぐったりと……。

伸一、「人形(タツヤ)」の息を確認する……。

いつの間にか、窓外からタツヤは女と並んで見ている……。

伸一 (改めて弟たちを見て) …… (彼らからはすごい臭いがしている) 母

ちゃんどした? おまえたちだけなのか?

伸次 なにしに来たんだよ 今頃ノコノコ

伸一 母ちゃんどうしたんだ(!?)

正 (紙片を伸一に投棄)

コドモダテへ

カッチャハアオモリサカエリマス

アドハシンイチサタノミナサイ

サヨナラ　ハハヨリ

伸一　…　いつだこれ　いつ出てった？

正　あんたさえ帰って来てくれてたら　姉ちゃんだつてあんなならずに

すんだんだ　オレらだつてこんな　乞食みたいならずにすんだんだ

伸一　…

伸次　黙ってねえで言うことねえのか？なんか

伸一　…　伸次

伸次　あやまれて言つてんだよ！　オレたちに！

伸一　…

伸次　（伸一が手にしている紙片を取り上げ、破り捨てる）誰もたのんでね

えのに生みやがってよ　オレたち生みやがってよ　生まれてこなけり

やよかつたんだ　オレたちなんか！

正　もう沢山だよ！　…もう沢山だ

間。

伸一 とにかく… 人 呼んでくる いいか どこにも行くなよ

正 聞かれたらなんて言うんだよこれ（人形）

伸一 だってこのままにしとくわけいかねえだろ

正 捕まっちゃうよオレら 刑務所行きだよ

伸次 三食寢床保証付き 天国だ（笑う）

正 おれはやだよ そんなのやだよ！

伸次 捨てよう

間。

伸次 オレたちはもうどうせ死んだ人間なんだ だろ？

間。

伸次 このままじゃみんな病院送りだ オレはごめんだ 姉ちゃんの二の舞

伸一
……
だけは（正に）オレがやる　なんか聞かれたら　気がついたらどっか
逃げ出してたって言やあいい（伸一に）人呼びに行くのは　その後だ

女　大きな　大きな流水が浮かぶ　海へとそそぐ川の上

その川に架かる　長い　長い橋が見えます

その上で一人立ち尽くす　幼い自分が見えます

タツヤ
……

女　小さな両手で　橋の欄干につかまり

遠くに広がる　オホーツクの海を眺める自分が見えます

橋の上に座り込み　両足を投げ出し

ブランブランと揺れている　自分が見えます

伸次は「人形（タツヤ）」を抱き起こし、背負う……。

女　笛のようにこだまする　風の音

容赦なく打ち寄せる　灰色の海

伸次　（「人形」　||　タツヤに）　いいか　ここで待ってんだ　ここにいたら

姉ちゃん迎えに来てくれる

タツヤ
……（一隅から見ている）

伸次
… 元気でな

女
長い 長い 橋の上

白い 白い 雪の色

痛い 痛い 北の海

赤い布の座らされた「人形」タツヤ」……それを取り囲むよ
うに伸一、伸次、正……。

防寒服の男
どうして言わなかった もつと早く お母さんがいなくなったってこ
と

タツヤ
……

防寒服の男
でも君たちはよくがんばった この寒さの中 電気もない所で半年間
子どもたちだけでよく我慢した あんな所で病気にもならず 生き
ていたのが不思議なくらいだ

タツヤ
……

防寒服の男、タツヤがタクシー運転手から奪い取った金を手にする……。

防寒服の男

でもね どんなことがあつても たとえそれが 自分が生きるためでも 人の物を盗んだりしちゃあいけない わかるね？ 港の人や鉄工所の人には 私からからよく謝つておこう

タツヤ

……

防寒服の男

さ 兄さんたちと一緒に お母さんのところへ帰ろう お母さんはね 今 青森というところにいる 汽車に乗つて 海を渡つたすぐのところ そこが青森だ

タツヤ、拳銃の銃口を防寒服の男の顔面へ――。

防寒服の男

タツヤくん 誰も来やしない ここで待つていても誰も

タツヤ

……

防寒服の男

大丈夫 お母さんはもう君を捨てるなんてことはしない だから安心して お母さんのところに帰ろう

タツヤ

……

防寒服の男

ハシモト！

キヨウコ、大きなトランクを手に入ってくる。

サヨナラ　ハハヨリ

流水と共に打ち寄せる、極寒のオホーツク——やがて白煙を吐き走る汽車——。

キヨウコ

(トランクを背中に隠すように) おかえり 帰ってたの？

キヨウコは赤いワンピース姿……。

キヨウコ

(笑顔) 早かったのね 遭えたの？お母さん

タツヤ

： なにしてる

キヨウコ

なにが？

タツヤ

(窓を示し) 見てたろ

キヨウコ

別に

タツヤ

なに見てた

キヨウコ

なに(どうしたの) 青森でなんかあったの？

かすかに聞こえている、パトカーのサイレン……。

タツヤ

(窓辺に行き、外を見る)

キョウコ

全共闘が暴れてんの 新宿駅のホームや線路 ヘルメット被った大学生でいっぱいだったわ おかげで電車も全線ストップ 今日はずかしくて快適な夜 ラジオでニュースやってんじゃない？

キョウコ、ラジオをつける。

「――被害者のタクシー運転手、田中康男さんは、頭部、及び顔面に、三発の弾丸を受けており、発見後すぐに病院に運ばれましたが、ほとんど即死の状態だった模様です。使用された銃弾は、先週東京、横浜で起きた警備員射殺事件で使用された銃弾と同じもので、警察は一連の凶行を『広域重要事件』に指定し、捜査に当たる模様です。また、今回の青森事件では、車内が必要以上に荒らされ、売上金も盗まれており、当初の通り魔的犯行とは異なり、犯人の残虐性が強められていることに、警察、及び市民の動揺は隠せない模様です。尚、いずれの被害者も、顔面及び、頭部を打ち抜かれていることから、犯人は精神異常者ではないかとの見方も出ています。これで、連続射殺事件によ

る被害者は三名を数えることとなりました。繰り返します。連続射殺犯事件による被害者は、三名を――」

タツヤ、ラジオを消す――缶ビールを飲み干す……。

タツヤ この事件 どう思う

キヨウコ 事件つて？

タツヤ (ラジオを示し) 聞いてたろ(！)

キヨウコ …… いかれてんじゃない？ 関係ない人三人も殺して きっと死刑よ

こんな犯人

タツヤ 関係なくねえ(！)

キヨウコ …… なにがあつたの？ 青森で 遭えなかつたの？ お母さんに

タツヤ 一緒に行かないか 北の町 オレの生まれたところ

キヨウコ ……

タツヤ 聞いてんのか？ オレと一緒に 網走に

キヨウコ タツヤ

タツヤ オレがやったんだ

キヨウコ　ね　ちよつと待って

タツヤ　だからオレがやったんだっての（！）

キヨウコ　タツヤ

タツヤ　だから事件だよ（ラジオを示し）オレがやったんだ！

キヨウコ　……

タツヤ　一緒に死のう　網走で一緒に（ポケットからタクシー運転手から奪った金を出し）ほら　金なら持つてるんだ

キヨウコ、思わずタツヤを払う。その拍子にタクシー運転手から奪った金が床に散乱する……。

キヨウコ　事件つてなに（？）

タツヤ　……

キヨウコ　…　嘘でしょ？

タツヤ、拳銃をキヨウコの前に。

タツヤ 持てよ

キヨウコ ……

タツヤ いいから持てつての（！）

キヨウコ、拳銃を手にする……ふと気づいて拳銃を置く――。

キヨウコ これ… 本物？

タツヤ ……

キヨウコ なんで？

タツヤ だから死ぬしかねえんだよオレは

キヨウコ なんでよ なんてしたのそんな（！）

タツヤ 死んでくれ な 網走でオレと一緒に 言つたら（？）死んでもいい
つて

キヨウコ ……

タツヤ 嘘だったのかよあれは！

キヨウコ ごめん

タツヤ ……

キヨウコ … 行けないの 行きたいけど やっぱり行けない あたしも黙って

たことあるの あんたに

タツヤ キヨウコ おまえまでサヨナラか？

キヨウコ タツヤ聞いて 大事な話

タツヤ キヨウコ

絃治 いつまで待たせんだよ

絃治が入ってくる——とつきに銃を隠すタツヤ。

絃治は大きなバックを持っている。

タツヤ ……

絃治 (キヨウコに) 青森に帰ったんじやねえのか？

キヨウコ 違うの いきなり来ちやつたの (タツヤが)

絃治 ケリついたんだろ 言つたら

タツヤ なんの用スか

絃治 (キヨウコに) 話してねえのか？なんも

キヨウコ ……

タツヤ 出てつてください

絺治 タツヤ

タツヤ 出てつてください

絺治 ああ出てく こいつと一緒にな

タツヤ ……

絺治 (キョウコに) 早くしろ

タツヤ なんなんだよ今更ノコノコよ!

絺治のタツヤへの暴力——タツヤの手がバックへ——。

キョウコ (絺治を制する) お願い絺治!

絺治 (キョウコを払い尚もタツヤへ)

キョウコ (尚もすがりつき) お願いすぐ話しつける 外出てて お願い ち

やんとつけるから話 お願い(!!)

絺治 ……

絺治、ラリハイの錠剤が入ったビニールの小袋をタツヤに。

タツヤ

……

紘治、出て行く……。

キヨウコ

… そういうわけなの あたし あの人と一緒に行くの あいつが生
まれたところ だから… だから あなたとは行けない

タツヤ

……

キヨウコ

駄目なの あたしやっぱりあいつに惚れてんの でも一緒にいたら壊
れちゃうのよ あたしも あいつも だから遠くに行こうとも思った
横浜から密航して 外国に行こうって思ったことだつてある でも
行けない やっぱりあいつのいるこの新宿に戻つて来ちゃう あいつ
から離れられない でわざわざよ あいつのいる店で客取つて あい
つのいる店で客と寝て なんで？ 少しでもあいつの世界に触れ
てたかった 少しでもあいつの世界を感じてたかった 消そうと思っ
た あいつを消そう だから警察にも売った でもやっぱり駄目 い
くら逃げてもあたしやっぱりあいつのところに帰つてる わかる？ あ
たし逃げられないのよあいつから 結局あいつのところには帰ると

ころがないの 切りたくても切れないのあいつが

海……。

キヨウコ

ごめんね

キヨウコ、出て行こうと——タツヤがそれをふさぐ。

タツヤ

オレどうすればいいんだよ オレはどこに行けばいいんだよ

キヨウコ

(出ようと)

タツヤ

(逃がさず)

キヨウコ
お願い あいつが待ってるの 行かなくちゃいけないの あいつのと
ころに

タツヤ

本当独りなんだ おまえにまで捨てられたら本当に独りになんだよオ

レは！

キヨウコ

だから言ってるんじゃない ごめんって！

タツヤ

……

キヨウコ サヨナラ

タツヤ、キヨウコを殴りつける。倒れたキヨウコを蹴りつけよう——、

キヨウコ (お腹を守り) お願い 顔いくらでもいいから お腹だけは 顔なら

いいから 気の済むまで いくら殴つても だからお腹だけは

タツヤ | キヨウコ(?)

キヨウコ …… もう殺したくないの だから顔ならいいから いくらでもいいから

タツヤ、キヨウコへの暴力——。

キヨウコ ◎△◆※!

タツヤを払い、ナイフを出すキヨウコ——。

タツヤ

……

キヨウコ

許さない この子のためなら あんただって許さない

タツヤ

おまえにわかんのか どんだけ寒かったか どんだけひもじかったか

そんな女と一緒に屋根の下で暮らす悔しさがおまえにわかんのか

オレたちにそんなことした女と一緒に 同じ屋根の下で暮らす悔しさがおまえにわかんのか！

キヨウコ

刺すよ 本当に

タツヤ

誰も頼んでねえのに生みやがつて オレたち生みやがつて おまえさ

え生んだ責任とりやあな 兄ちゃんも姉ちゃんもオレも こんななら
ずにすんだんだよ 全部おまえのせいだろうがよ！

キヨウコ

甘つたれんじゃねえよ！ あたしが生まれたところはもつと酷かつたよ

あんたんとこよりもつと！ 屋根があるぶんあんたんとこは天国
だよ あたしんとこに比べりゃ！

パン——。

キヨウコ

……

タツヤ
……

人形のように倒れるキョウコ……。
拳銃を手にしているタツヤ……。銃口から火薬煙……。

タツヤ
……

絃治が入ってくる。

絃治
… なにしてる

タツヤ
……

絃治
キョウコ…？ キョウコ！

タツヤ
大きな 大きな流水が浮かぶ 海へとそそぐ川の上
その川に架かる 長い 長い橋が見えます

絃治
……

タツヤ
その上で一人立ち尽くす 幼い自分が見えます

小さな両手で 橋の欄干につかまり

伸次

遠くに広がる オホーツクの海を眺める自分が見えます
橋の上に座り込み 両足を投げ出し
ブランブランと揺れている 自分が見えます
タツヤ

伸次……。

タツヤ

笛のようにこだまする 風の音
容赦なく打ち寄せる 灰色の海

正……。

タツヤ

長い 長い 橋の上
白い 白い 雪の色
痛い 痛い 北の海

白い女

(『骨まで愛して』を口ずさんでいる)

タツヤ、拳銃を兄弟たちに銃口――。

看守

ハシモト！

キョウコが起き上がり、人形をタツヤの前に投棄。

「連続射殺魔が逮捕されました。繰り返します。連続射殺魔が逮捕されました。本日、午後九時頃、新宿区下落合一丁目十四番地幸荘に於いて、同アパートの管理人が銃声のようなものを聞いたという通報を受け、付近巡回中の警官が急行した所、同アパート、二F五号室に於いて、カネコキョウコさん、十九才が、頭を撃ち抜かれ、血まみれになつて倒れているのが発見されました。警官が、現場に居合わせた、同じく十九才の少年を緊急逮捕し、犯行に使われた凶器の拳銃を調べたところ、先の東京、横浜、青森の各事件で使用された拳銃と同一のものであることが判明しました。犯人の名前は、元喫茶店ボーイ、ハシモトタツヤ、十九才。繰り返します、元喫茶店ボーイ、ハシモトタツヤ、十九才。四名を射殺した、凶悪な連続射殺魔が、意外にも十九

才の少年であったことに、警察、及び市民の驚きは隠せない模様です。ハシモトは、これまで入った情報によりますと、犯行の動機、理由について、ハシモトは一切黙秘を続けている模様です。」

激しく鉄扉の閉まる音――。

面会室……窓外に、頬被りをした老婆……。

看守

(老婆に) ご存じと思いますが 本人は死刑判決を受けている人間です
くれぐれも言動には

老婆

……

看守、面会室の中に……。

看守

悪いが時間はあまり取れない いいな

タツヤ

……

看守

ハシモト 切ろう切ろうと思っても 切れてくれない それが親子だ

タツヤ

……

看守

…… (老婆に) どうぞ

老婆……ひどい跛をひきながら……面会室へ……。

タツヤ
……

看守、面会室から出て行く……。

タツヤ
なにしに来た　今更ノコノコ

老婆
……

タツヤ
言つとくが　オレはもうあの頃のオレじゃない　あんにゴクツブシ
呼ばわりされてた頃のオレとは

老婆
……

タツヤ
網走であんに捨てられ　兄ちゃんたちにも捨てられ　オレはあの橋
の上でずっと待ってた　姉ちゃんが迎えに来るって言われて　来ない
ことはわかってた　いくらオレでもそんなことは　でもオレは待って
た　言われたままにずっと　寒さに震えながら　あのとき　オレはな
にを待ってたのかオレはずっとわからなかった（右手を見つめる）：
…拳銃をこの手にしたとき　やつとそれがわかったんだ　オレが待つ

老婆
……
ていたのはコレだ やつとめぐり会えたって 自分の最愛するものに

……
タツヤ、キャベツを食う……。

タツヤ
（以下、食いながら）うれしいだろあんた オレが死刑になつて

老婆
……

タツヤ
あんたのことだからどうせ忘れてんだろうがね あんたことある毎によく言つてたんだ 伸次や正は仕方ねえども タツヤだけはあのまま網走に置いといてもらいだがつた …… あんたの願いもこれで叶つたつてわけだ

老婆
……

タツヤ
（震えてくる）……オレはもうすぐ殺される 殺したから殺される
当然だよ でも怖くないね どうせ独りで生まれてきたんだ 独りで死んでくだけのこと ……（笑う）

老婆
（頭を垂れる）

タツヤ
（笑う）似合わねえよ あんたがそんな殊勝ぶんなんてさ

なして殺した なんも関係ねシト

タツヤ
： あの女にも言われたよ

なしてだ

タツヤ
だから関係なくねえんだよオレの中じゃ！

老婆
……

タツヤ
新宿に流れる前 横浜に女の乞食がいてね いつもゴミ箱漁ってた
通りすがりの人間（に）石とか投げられてさ 最初見たとき思ったよ

あ オレよりも下がいたって でもね その女乞食 小さな男の子
を連れてた 乳母車引いて いつも二人： （笑う）わかつてもらおう
なんて思わねえよ わかるわけねえんだし誰もオレのことなんて
オレが他人と違うんだってことは この十九年でイヤってほどたたき
込まれたしね！ オレは： オレを捨てた人間全部ぶつ殺そうって
どうせ独りで死ぬんなら ぶつ殺せるだけぶつ殺して ウジ虫みてえ
な人間全部――

老婆

(頬被りを取り) オメさ殺されだ四人だつて 子どもいるべあ 親兄
弟いたべあ

タツヤ

――

頬被りを取ると、それはキョウコの顔……。

警備員1、警備員2、タクシー運転手が窓の外に浮かぶ……。

(それらは皆、見知らぬ顔ばかりである……)

タツヤ

……

海……。

タツヤ、ノートを取り上げ、老婆の前に投棄。

老婆

……

タツヤ

待ってるよ 一足先に 天国でサ

女

(『骨まで愛して』を口ずさむ)

窗外を通る、人形を背負う「白い女」……

タツヤ
——！（立ち上がる）

暗転——。

静寂……響き渡る、銃声——。

幸福はいらない 飯はいらない 欲しいのは静寂

子宮のような 暗い静寂

ぼくは求め願った 探し彷徨った

もし許されるのであれば

ぼくは最愛するものの側に行きたい

どこまでも深く 骨の芯の一片まで染めてしまう 愛の中で

（作詞・新垣亘平／編・鐘下辰男）

闇の中に浮かび上がるタツヤのノート……。

激しい音をたてて、電車が通り過ぎていく——。

◆ 覚書

- ・キョウコ、伸一の妻、老婆は同一人物によって演じられる。
- ・白い女、月子は同一人物によって演じられる。
- ・紘治、伸一、警備員2は、同一人物によって演じられる。
- ・広志、伸次、警備員1は、同一人物によって演じられる。
- ・修、正、タクシー運転手は、同一人物によって演じられる。
- ・「若者たち」は、キョウコとタツヤ以外の人物によって演じられる。
- ・看守、コンサルタント、マスター、防寒服の男は、同一人物によって演じられる。